Benesse

ミライシード
カルテ
利用マニュアル

ミライシード お問い合わせ窓口

TEL 0120-301-013

受付時間：平日9:00～17:00（お盆期間、年末年始を除く）

▼ミライシードの操作や活用についての情報をご確認いただけます。

ミライシード　ファンサイト　で検索！

https://bso.benesse.ne.jp/miraiseed/fansite/

発行：株式会社ベネッセコーポレーション　2025.10 更新

目 次

カルテとは 3

先生用カルテの機能 4
子ども用カルテの機能 11

先生が使う 13

先生ができること 14
1. カルテを開く・がんばりを確認（先生用カルテ トップ画面） 15
2. 単元別に学習データを確認（単元別学習レポート） 18
3. 学習データを出力する（データ出力） 24
4. オクリンクプラスのカードを検索する（カード検索） 27

子どもが使う 28

子どもができること 29
1. カルテを開く（子ども用カルテ トップ画面） 30
2. 学習のふりかえり（単元別学習レポート） 34
3. 目標とふりかえり（目標チャレンジ） 35
4. 集めた「リーフ」を「お宝」と交換（お宝交換・図鑑を見る） 41

著作権について 43

ご注意ください

本マニュアルに掲載されている画面写真は2025年10月時点のもので、予告なく変更される可能性があります。
所属している自治体やまたは学校の契約がないサービスは「利用対象外のサービスです」と表示されます。
また、ネットワークや端末の動作環境については「インストールマニュアル」をご参照ください。

カルテとは

ミライシードから生み出される、多様な**学習データを蓄積・分析**。
先生用カルテでは**指導の質と効率の向上**を、子ども用カルテでは**主体的な学び**を支援します。

※オクリンク・ムーブノートに対応したカルテ、ふりかえりは2026年3月末でサービスを終了します。
詳細はデータ移行マニュアル、またはミライシードファンサイトをご確認ください。

ミライシードの学習データを蓄積

オクリンクプラス
- 提出したカード
- 先生からの評価

ドリルパーク
- 自主学習・課題への取り組み状況

テストパーク
- テストでの得点

先生・子どもの　各「カルテ」に表示

先生用カルテ

学習データを単元ごとに集約

→ 単元指導・評価の質向上を支援

学習データを検索・出力

→ 効率的な期末評価を支援

子どものがんばりを可視化

→ 細やかな個別指導を支援

指導の質と効率の向上を支援

子ども用カルテ

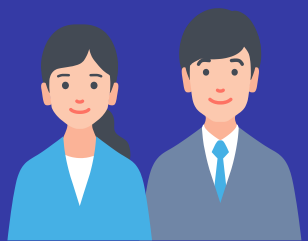
自らの学習をふりかえる機能

→ 自己調整的な学習を支援

小さながんばりも褒め・励まし

→ 自己肯定感向上

主体的な学びを支援



先生用カルテの機能

学習データを単元ごとに集約

単元指導・評価の質向上を支援

単元別学習レポート

「**単元別学習レポート（p.18）**」では、ミライシードの学習データを教科書単元ごとに集約して表示。授業でのプロセスや成果、テスト結果などの多面的で客観性のあるデータを材料に、**単元ごとの評価とふりかえり指導**の質向上をサポートします。

活用例

単元ごとの評価 →次ページ
単元ごとのふりかえり指導 →p.6

オクリンクプラス

- **授業で提出したカード一覧**

  その単元で提出したカード群を一覧表示。**授業でのプロセス**や**試行錯誤**、**成果**、先生が入力したカードへの**評価**を個別に確認できます。

- **授業での評価平均**

  カード一覧の**評価を集計**し、平均値をグラフ化。全体評価と観点別評価を確認できます。

ドリルパーク

- **自主学習・課題への取り組み**

  取り組み問題数や解き直し問題数、取り組み時間など、ドリルパークでの取り組み状況がグラフで可視化。自主学習への**「主体性」「成長」「粘り強さ」**などが読み取れます。

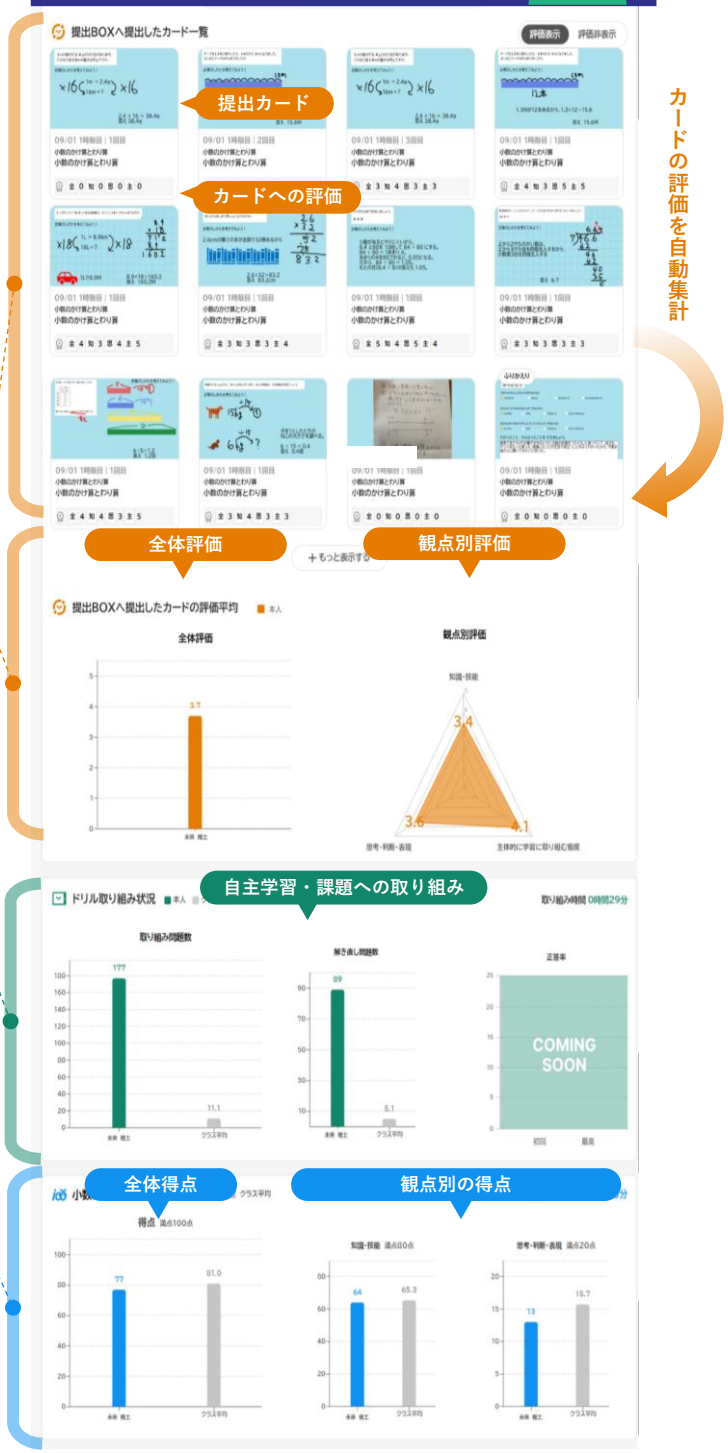
テストパーク

- **テストでの成績**

  テストでの得点もグラフ化。**学力の定着度**を測ることができます。

▼学習レポートの表示例

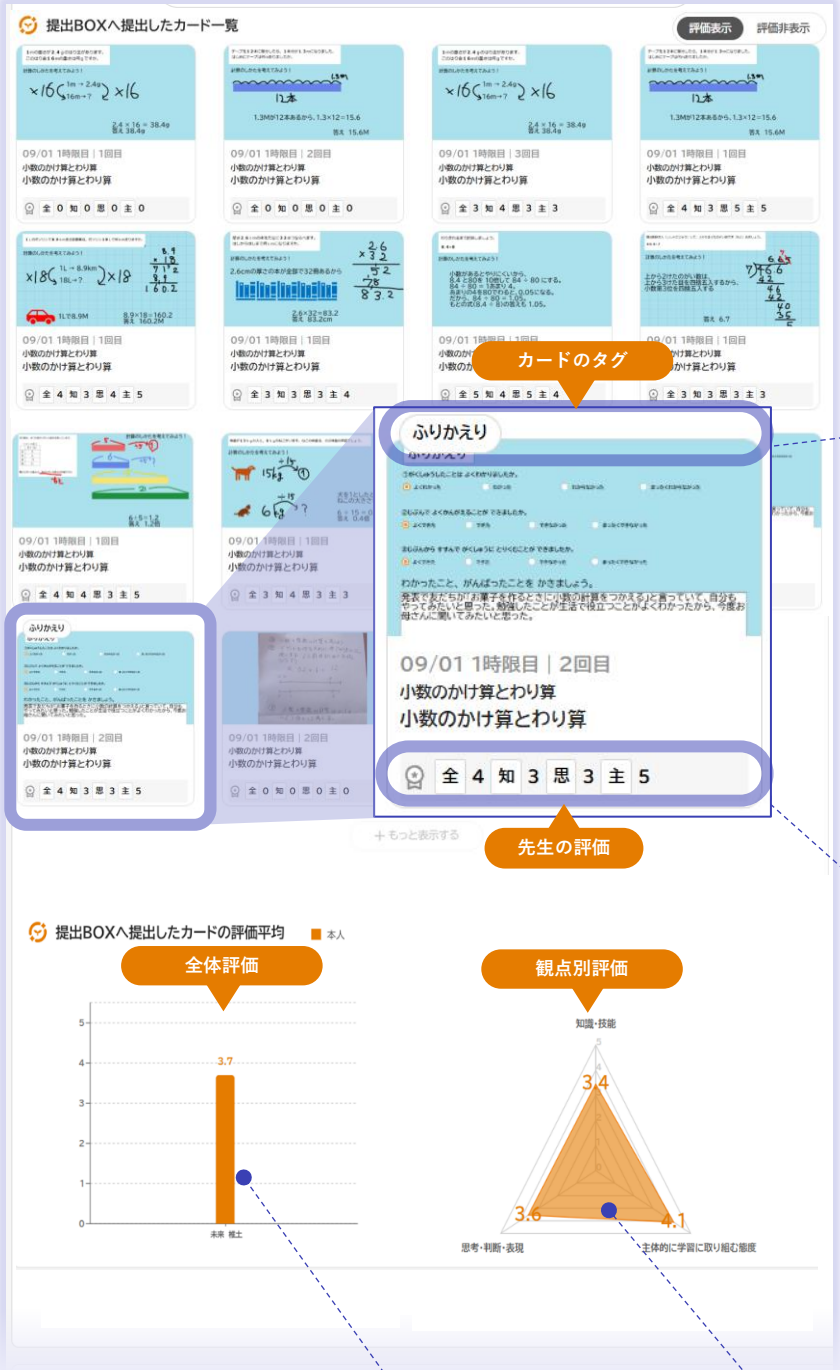
単元「単元名小数のかけ算とわり算」での
未来 椎土さんの学習データ



単元別学習レポート
活用例

単元ごとの評価に

「単元別学習レポート」なら、テストの点だけでない多角的な評価ができます。



オクリンクプラス
提出カードを確認

授業の各段階での活動から取り組みへの態度などを見取る

「めあて」のときは関心が薄そうだったけど、「まとめ」では何度も試行錯誤していたな。「ふりかえり」での自己評価もいつもよりポジティブだ。

「タグ」とは？

オクリンクプラスでは、カードに４つのタグを設定できます。

- めあて
- まとめ
- ふりかえり
- 黒板

提出カードにタグをつけておけば、授業の各段階での活動記録を残すことができます。

カード個別の評価を確認

単元の最初のほうでは思考・判断・表現の評価が低かったけれど、単元の最後の成果物は、評価がアップしている。

「評価」とは？

オクリンクプラスでは、提出したカードに先生からの「評価」を登録できます（子ども画面には表示されません）。

登録できる評価：

- 全体評価
- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に取り組む態度
- 任意に設定している評価観点

※カルテ上では評価は設定できません

オクリンクプラス
カードへの評価平均を確認

全体評価を数値（平均）で確認

評価平均も総合的に高め。

観点別評価を数値（平均）で確認

知識・技能の評価は高いが、思考・判断・表現の評価が平均より低めだ。

ドリルパーク　ドリルの取り組みを確認

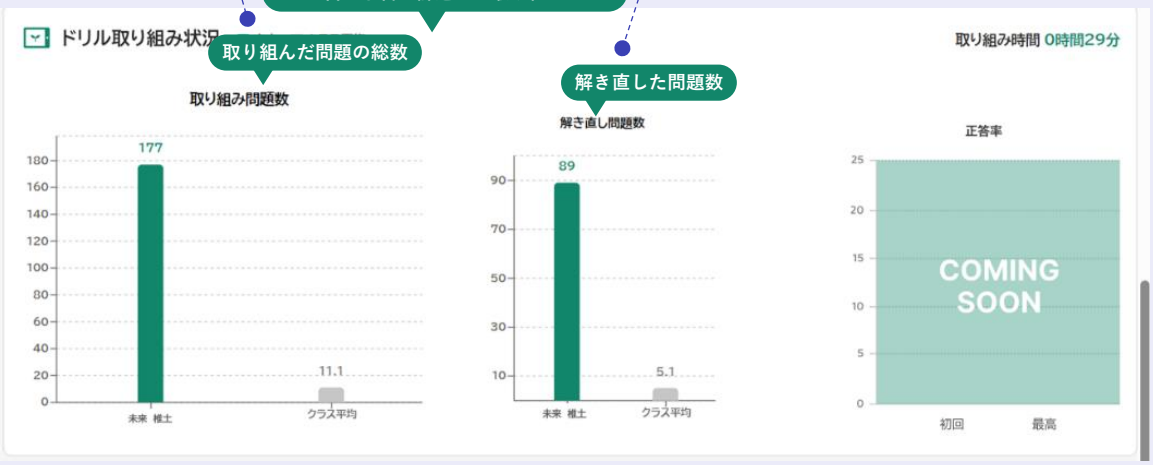
取り組み数から
主体的な取り組みを見取る

クラス平均よりたくさん取り組んで頑張っているな。

解き直した問題数から、
粘り強さを見取る

間違った問題にもたくさん取り組めている。最新回で正答数が多くなったのは解き直しをしっかりできているからだな。

自主学習・課題への取り組み



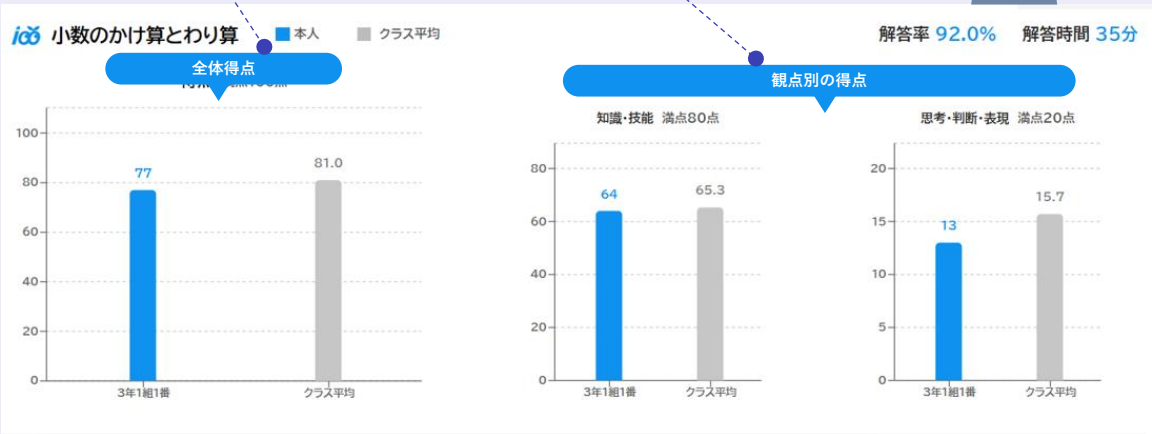
テストパーク　テストの得点を確認

全体得点を確認

クラス平均よりも高くなっているのは、ドリルパークでのがんばりの成果だろう。

観点別の得点を確認

知識・技能」「思考・判断・表現」ともよくできている。バランスがよい。

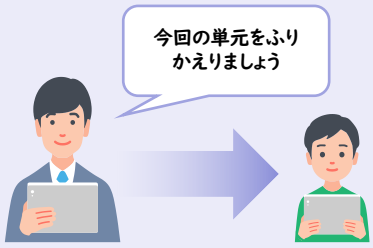


単元別学習レポート
活用例

単元ごとのふりかえり指導に

「学習レポート」は**子ども用カルテにも同じ画面**※が表示されるため、面談などで子どもと一緒にふりかえり（p.11）ができます。

※子ども用カルテにはカード一覧の評価、カードの評価平均、各グラフでのクラス平均は表示されません。



学習データを検索・出力

効率的な期末評価を支援

データ出力

カード検索

クラス全員の「学習レポート」を出力 …データ出力

p.24

「学習レポート」の内容を**ExcelまたはCSVファイル**に出力できます（「カード一覧」を除く）。「学習レポート」では１人ずつデータを表示しますが、「データ出力」では**クラス全員分**を１ファイルで確認できます。Excelや他の成績管理システムでのさまざまな分析にご活用ください。

▼「学習レポート」

「データ出力」で、クラス全員のデータをまとめて

Excel・CSVファイルに出力

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	年	組	番号	氏名	教科	単元	オクプラ_全体	オクプラ_知識・技能	オクプラ_思考・判断・知識	オクプラ_主体的に学習に取り組む態度	ドリパ_取り組み問題数
2	4	1	1	未来 椎士	算数	小数のかけ算とわり	3.7	3.4	3.6	4.1	177
3	4	1	2	○○ ○○	算数	小数のかけ算とわり	1.9	0.7	1.1	3.9	80
4	4	1	3	○▽ ○▽	算数	小数のかけ算とわり	2.3	3.1	3.8	0.0	94
5	4	1	4	●● ○○	算数	小数のかけ算とわり	2.0	0.0	2.8	3.1	53
6	4	1	5	●◎ ●◎	算数	小数のかけ算とわり	3.2	3.4	1.7	4.4	87
7	4	1	6	○◎ ◎○	算数	小数のかけ算とわり	1.5	1.7	1.6	1.3	43
8	4	1	7	▲▲ ▲▲	算数	小数のかけ算とわり	1.6	0.9	2.8	1.0	57
9	4	1	8	□◎ ○△	算数	小数のかけ算とわり	2.3	2.5	1.5	2.7	52
10	4	1	9	□□ ◆◆	算数	小数のかけ算とわり	1.4	0.1	1.4	2.9	84
11	4	1	10	○◇ ○◇	算数	小数のかけ算とわり	2.6	0.9	2.5	4.4	76

オクリンクプラス

- **評価平均**
  （全体、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）

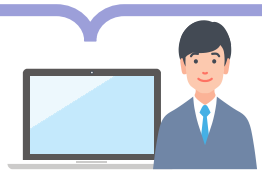
ドリルパーク

- **取り組み問題数**
- **解き直し問題数**
- **取り組み時間**

テストパーク

- **全体の得点、満点**
- **知識・技能の得点、満点**
- **思考・判断・表現の得点、満点**
- **解答率**
- **解答時間**

Excelや他システムで分析



データ出力 活用例

Excelでの分析に

Excelの「条件付き書式」や「フィルター」などの機能を利用して、さまざまな分析ができます。

※Excelでの操作方法は、Excelのサポートサイトなどでご確認ください。

Excelの「条件付き書式」機能を利用して…

➡ **グラフ表示で数値を可視化**

氏名	教科	単元	オクプラ_全体	オクプラ_知識・技能
未来 椎士	算数	小数のかけ算とわり	3.7	
○○ ○○	算数	小数のかけ算とわり	3.7	
○▽ ○▽	算数	小数のかけ算とわり	1.0	
●● ○○	算数	小数のかけ算とわり	4.4	
●◎ ●◎	算数	小数のかけ算とわり	4.7	
○◎ ◎○	算数	小数のかけ算とわり	2.8	
▲▲ ▲▲	算数	小数のかけ算とわり	1.9	
□◎ ○△	算数	小数のかけ算とわり	1.7	
□□ ◆◆	算数	小数のかけ算とわり	2.6	

Excelの「並べ替え」機能を利用して…

➡ **点数の高い順に並べ替え**

氏名	教科	単元	オクプラ_全体	オクプラ_知識・技能
●◎ ●◎	算数	小数のかけ算とわり	4.7	3.
●● ○○	算数	小数のかけ算とわり	4.4	0.
未来 椎士	算数	小数のかけ算とわり	3.7	3.
○○ ○○	算数	小数のかけ算とわり	3.7	0.
○◎ ◎○	算数	小数のかけ算とわり	2.8	1.
□□ ◆◆	算数	小数のかけ算とわり	2.6	0.
▲▲ ▲▲	算数	小数のかけ算とわり	1.9	0.
□◎ ○△	算数	小数のかけ算とわり	1.7	2.
○◇ ○◇	算数	小数のかけ算とわり	1.0	0.

Excelの「フィルター」機能を利用して…

➡ **「人」（氏名欄）でフィルタリングし、個人単位で全単元を確認**

氏名	教科	単元	オクプラ_全体	オクプラ_知識・技能
未来 椎士	算数	学びのとびら	3.7	3.4
未来 椎士	算数	大きい数のしくみ	2.6	0.1
未来 椎士	算数	折れ線グラフと表	1.9	0.9
未来 椎士	算数	わり算の筆算（1）	0.9	1.4
未来 椎士	算数	角の大きさ	2.8	2.8
未来 椎士	算数	小数のしくみ	1.1	0.9

➡ **「単元」でフィルタリングし、単元単位でクラス全員を見渡す**

単元を横断し、タグや評価でカードを検索

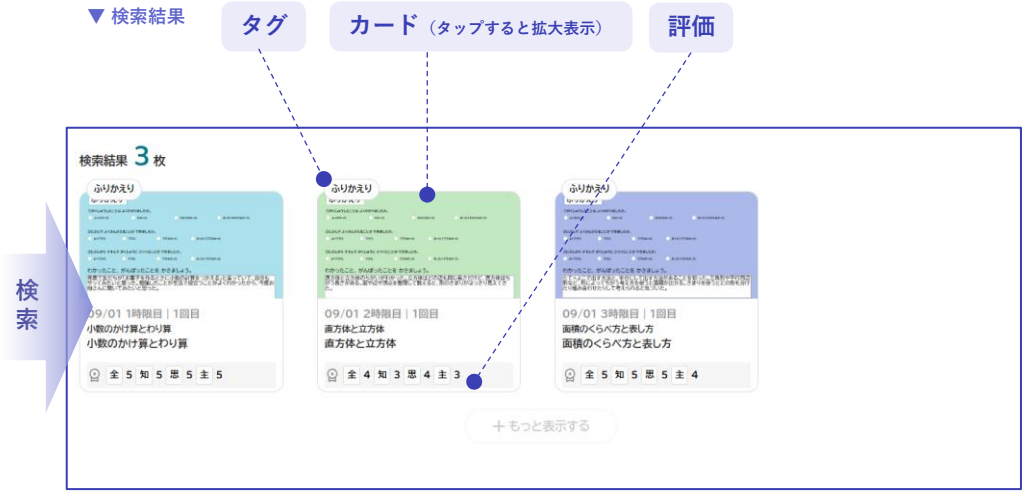
… オクリンクプラス カード検索 p.27

その子どもがオクリンクプラスの「**提出BOX**」**に提出したすべてのカード**から、「タグ」や「評価」など任意の条件を組み合わせて検索できます。
単元を横断して検索できるため、カードを広範に俯瞰しながら総合的に評価を検討できます。

検索できる項目

- ☐ **学年**
- ☐ **教科**
- ☐ **単元**（複数選択可）
- ☐ **期間**（学期など）
- ☐ **評価**
  - 全体評価
  - 知識・技能
  - 思考・判断・表現力
  - 主体的に取り組む態度
  - 独自に追加した評価観点
- ☐ **タグ**
  - めあて
  - まとめ
  - ふりかえり
  - 黒板

▼ 検索結果



カード検索 活用例

期末の評価に

その学期のすべての単元で、**全体評価が高いカード**（☆5）を検索。☆5のカード枚数を期末評価の基準にするなどで、根拠のある評価につなげることができます。

- **Aさんは全体評価☆5が5つだから、期末評価A**
- **Bさんは全体評価☆5が3つだから期末評価B**

…

※子どもを切り替えても、同じカード検索条件で検索結果が表示されるので、同じ観点でクラスの子どもを確認できます。

特定の観点での評価に

任意の教科で「**タグ**」が「**まとめ**」のカードを検索し、カードの内容から「考えをまとめる力」を確認するなど、特定の観点で評価する材料にできます。

Aさんは国語のまとめ方が夏休み明けから上手になっている。
特に2学期の発表でのまとめは見事！

学校独自の観点での評価にも

オクリンクプラスでは、評価観点に学校独自の観点を追加できます。学校や先生独自のルーブリックがある場合などにご活用ください。

▼ 学校独自の観点（ルーブリック）例

	内容：事実に基づいているか	内容：因果関係が示されているか	表現：図表を用いているか	表現：テキストが端的にまとまっているか
☆5	事実に基づいた情報が正確であり、信頼できる資料やデータを適切に引用している。	因果関係が明確に示されており、論理的に整合性がある。	適切な図表を複数使用し、内容を効果的に補足している。	テキストが簡潔で要点が明確に示されており、読みやすい。
☆4	事実に基づいた情報が正確であるが、引用や根拠が一部不足している。	因果関係が示されているが、一部論理のつながりが弱い部分がある。	図表を使用しているが、内容との関連性が一部不明確である。	テキストが概ね簡潔であるが、一部冗長な表現が含まれている。
☆3	事実に基づいているが、情報の正確性に疑問がある部分がある。	因果関係が示されているが、説明が不十分で論理性に欠ける部分がある。	図表を使用しているが、内容を補足する役割が十分に果たされていない。	テキストがまとまりに欠け、要点が分かりにくい部分がある。

子どものがんばりを可視化

細やかな個別指導を支援

みんなのがんばり
目標とふりかえり

小さながんばりも見逃さない … みんなのがんばり

p.16

クラス全員のミライシード上でのがんばりを一覧で表示します。「先週よりたくさん使った」「累計数を更新した」など、小さな変化や地道ながんばりをキャッチ。**普段の観察だけでは気づきにくい子どもたちの努力や取り組み**を見逃しません。個別の声かけにご活用ください。
※毎日6時頃に更新されます。過去10日間（当日は含まない）の取り組みをもとに表示しています。

▼ みんなのがんばり

さまざまな観点で、クラス全員のそれぞれのがんばりをピックアップ

クラスで一番！

Aさん

解き直し回数がクラスで一番

先週比で増加！

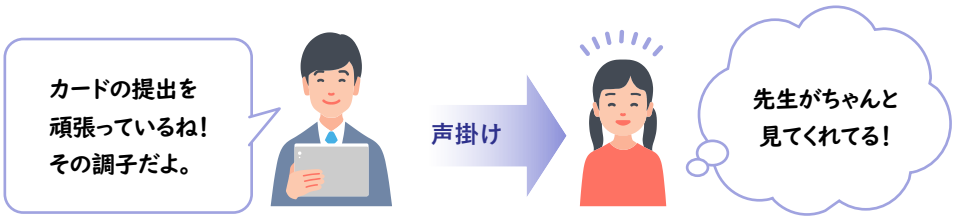
Bさん

先週より提出回数が増えた

累計数が更新！

Cさん

取組の累計回数が増えた



目標への取り組みと、自己評価からがんばりを見取る … 目標とふりかえりp.17

子ども用カルテの「**目標チャレンジ**」機能（p.12）で、毎週設定する**目標およびミッション**と**そのふりかえり**を先生画面で確認できます。目標を立てて学習に臨めているか、自分の取り組みをふりかえってメタ認知・評価できているかを確認できます。

目標とふりかえり 活用例

「目標チャレンジ」機能で、学習サイクルの定着を促す

週をサイクルとして、目標を立てて学習に取り組み、ふりかえるための「目標チャレンジ」機能。ただ学習に取り組むだけでなく、ふりかえるまでが１サイクルとなっているので、自らの学習をふりかえって次の行動を考えられるようになっています。自律的な学習習慣の定着にご活用ください。

STEP 1　先生からの指導

「目標チャレンジ」への取り組みが定着するまでは、先生からの指導で活用を促します。

STEP 2　子どもによる取り組み

「目標チャレンジ」に取り組みます。（詳細はp.35）

❶ 週のはじめに

目標とミッションを設定

目標（「国語を頑張る」等）と、目標に対して具体的に何をするかを決めるミッション（「ドリルパークの国語ドリル２つ」等）を設定します。

❷ その週中に

学習に取り組む

ミッションに取り組みます。
（オクリンクプラス、ドリルパーク）

❸ 翌週のはじめに

ふりかえり

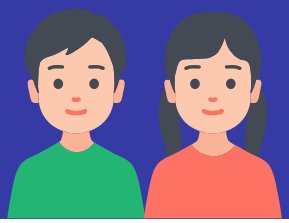
目標に対して頑張れたかどうかをメタ認知し、自ら評価。
（５段階）

STEP 3　先生による確認

子どもの取り組み結果を先生画面で確認。「目標チャレンジ」での学習習慣の定着度や子どもの様子をチェックします。

Aさんは目標設定もできていないな。

Xさんは苦手な算数を目標にしているな。でもふりかえりが「頑張れなかった」になっている。何か困っていることがあるのかな？



子ども用カルテの機能

自らの学習をふりかえる機能

自己調整的な学習を支援

単元別学習レポート

目標チャレンジ

ミライシードでの学習を横断的にふりかえり

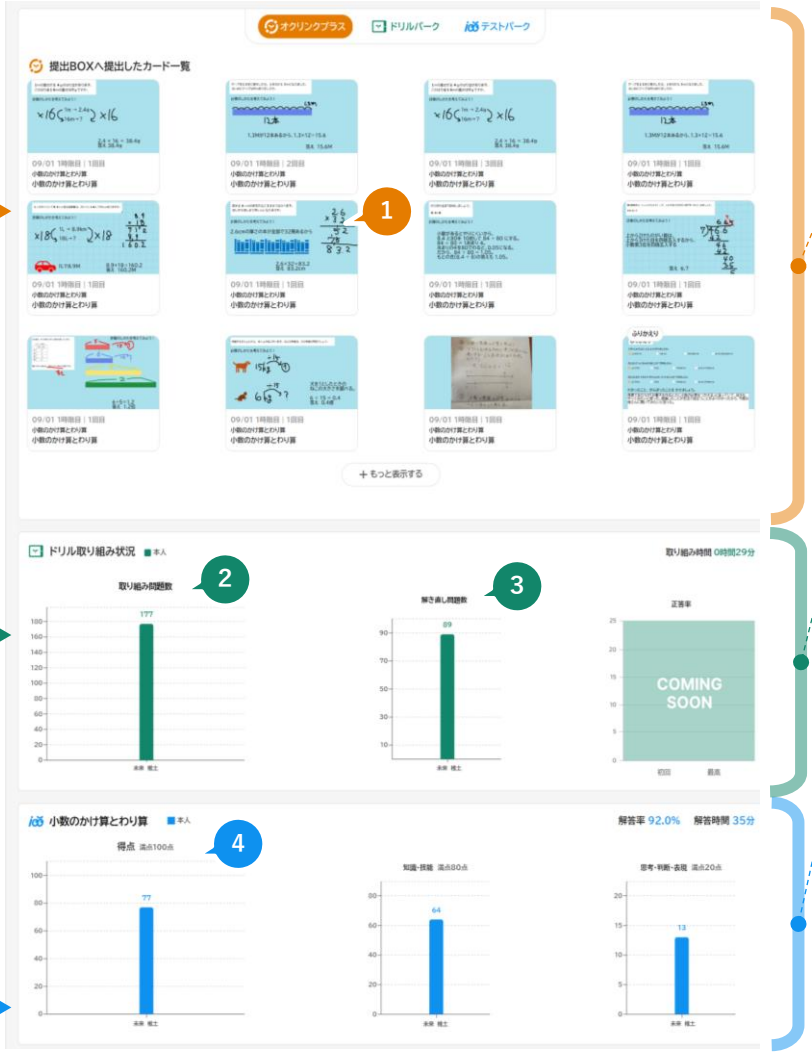
… 単元学習レポート p.34

自分がこれまで取り組んだ内容を単元ごとに一覧できるので、効率的に学習をふりかえれます。自分の成長や課題点をデータから見出し、次の学習に活かす自律的な学習を支援します。

授業で提出したカード一覧
オクリンクプラス

ドリル取組状況
ドリルパーク

テストでの得点
テストパーク



ふりかえり例

授業でのプロセス・成果をふりかえる

❶ この授業の解き方は、みんなにもほめられた自信作。計算のコツがわかってきた気がする。

自分の成長を見取る

この単元はドリルを ❷ たくさん取り組んだな。正解できるようになるまで ❸ 解き直しも頑張った！

学力の定着をふりかえる

ドリルを頑張ったから ❹ テストもばっちり！

ふりかえりから学習を調整

100点にならなかったのはなんでだろう？ どの問題を間違えたんだっけ。見直してみよう。

毎週目標を立てて、ふりかえる …目標チャレンジ p.35

1週間を1サイクルとして、**目標設定 ▶ 学習への取り組み ▶ ふりかえり**を実施します。自分で決めた目標を意識して学習に取り組むことで、自己調整的な学習習慣の定着をサポートします。

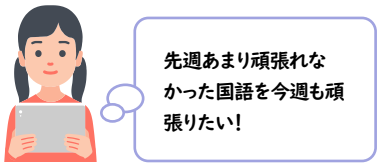
一週間のサイクル

❶ 週のはじめに

カルテ

目標とミッションを設定

週に1回、目標（「国語を頑張る」等）と、目標に対して具体的に何をするかを決めるミッション（「ドリルパークの国語のセットを2つ解く」等）を設定



❷ その週中に

オクリンクプラス、ドリルパーク

学習に取り組む

❸ 翌週のはじめに

カルテ

ふりかえり

目標に対して頑張れたかどうかをメタ認知し、自ら評価

日々の学習モチベーションを後押しする「報酬」 （p.33）

- カルテやミライシードの学習アプリでの取り組み状況に応じて「報酬」を付与。楽しみながらの自走を後押しします。
  毎週の目標達成や、ドリルパークの取り組みだけでなく、「カルテを開いた」といったアクションだけでも報酬が付与されるので、毎日カルテにアクセスするきっかけとなります。

- カルテのトップ画面には、自分が設定した目標とその取り組み状況が表示されているので、日々カルテにアクセスすることで自分の目標を意識し、学習に向かえます。

▼子ども用カルテ トップ画面

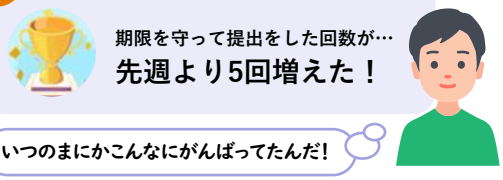
小さながんばりも自動で褒め・励まし
自己肯定感向上を支援

キミのがんばりポイント

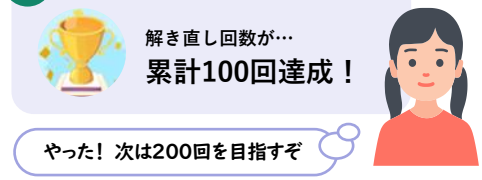
毎日、子どもの取り組みから褒め・励ましのポイントを検知し、**「キミのがんばりポイント（p.32）」**として提示します。「取り組み回数が増えた」「先週よりがんばった」「クラスで一番になった」など小さな積み重ねや成果を褒めることで、自分でも気付きにくい成長や努力を認識し、継続のモチベーションや自己肯定感の向上につながります。

毎日「がんばりポイント」を提示

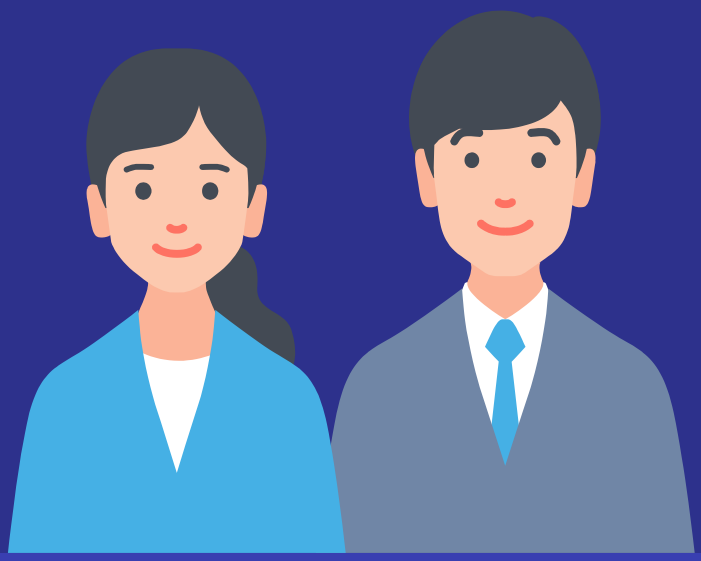
オクリンクプラスの例



ドリルパークの例



先生が使う



先生ができること …… p.14
1 カルテを開く・がんばりを確認（先生用カルテ トップ画面） …… p.15
2 単元別に学習データを確認（単元別学習レポート） …… p.18
3 学習データを出力する（データ出力） …… p.24
4 オクリンクプラスのカードを検索する（カード検索） …… p.27

先生ができること

1 カルテを開く・がんばりを確認

先生用カルテ トップ画面

日常的な確認に

「みんなのがんばり」「目標とふりかえり」で、ミライシードでの子どものがんばりや取り組み状況を確認します。

→ p.15

2 単元別に学習データを確認

単元別学習レポート

単元別の指導・評価に

ミライシードの学習ログを教科書単元ごとに集約して表示。授業でのプロセスや成果、テスト結果などの客観性のあるデータを材料に、単元ごとの効率的な評価をサポートします。

→ p.18

3 学習データを出力する

データ出力

期末の評価に

クラスの学習データ※を、教科ごとにExcelまたはCSVファイルで出力できます。

※カード一覧を除く

他の成績管理システムへの取り込みや、Excelでの分析にご活用ください。

→ p.24

4 オクリンクプラスのカードを検索する

カード検索

期末の評価に

その子どもが「提出BOX」に提出したカードから、特定の条件に合致するカードを検索できます。

特定の単元（複数選択可）や、特定のタグ、評価など、さまざまな条件を組み合わせることができます。

→ p.27

1 …… カルテを開く

先生用カルテ トップ画面

1 ミライシードにログインし、［カルテ］をタップ

カルテの先生用トップページ（下図▼）が表示されます。選択中のクラスの「**みんなのがんばり**」「**目標とふりかえり**」が表示されています。

▼ミライシード　ポータル画面

学習レポート

「単元別学習レポート」を表示します。

→ p.18

データ出力

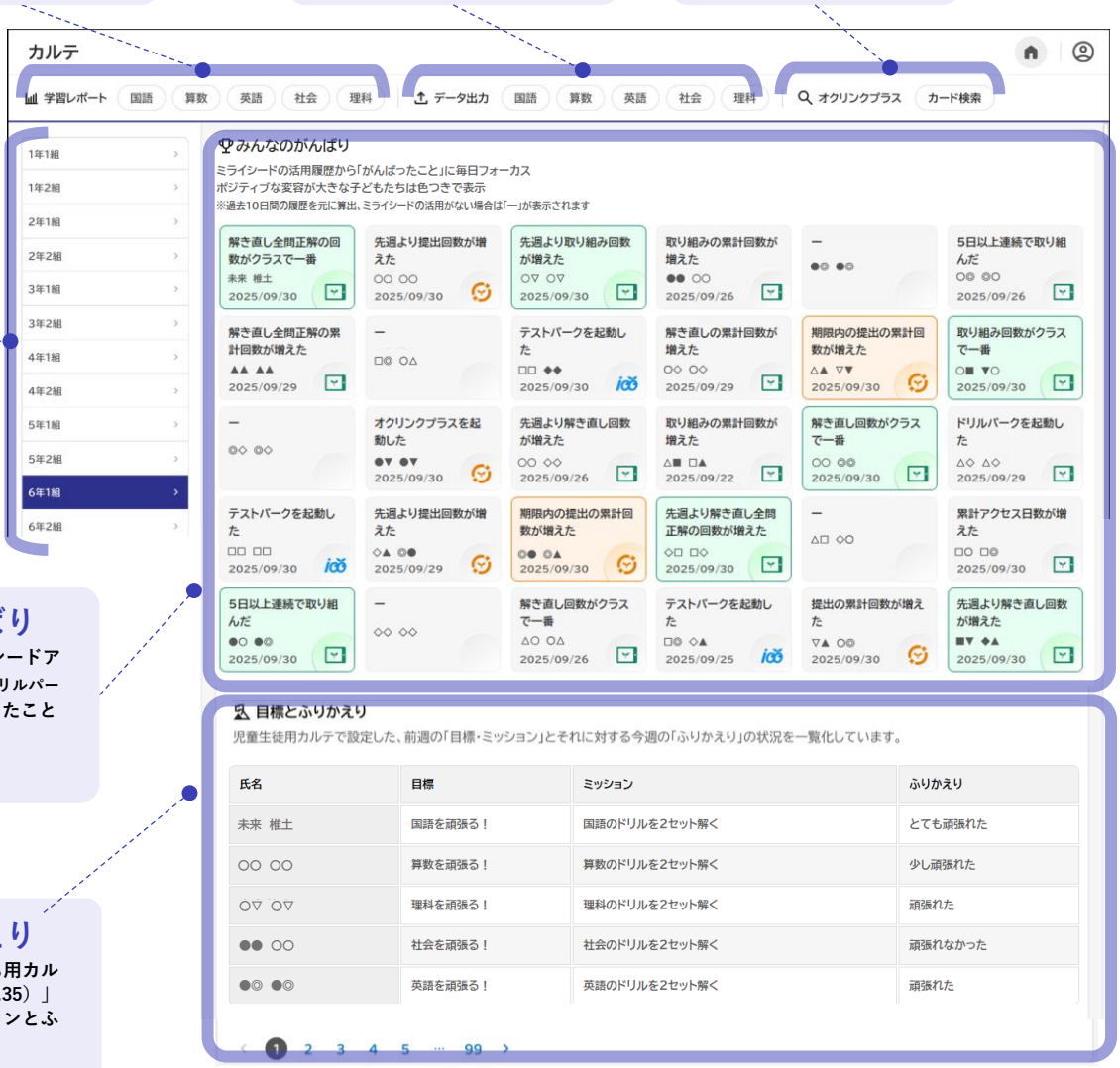
さまざまなデータをExcelまたはCSVファイルに出力できます。

→ p.24

カード検索

オクリンクプラスのカードを検索できます。

→ p.27



クラス

自分の所属・担当クラスによらず、すべての学年・クラスを確認できます。
※授業クラスもこちらの一覧に表示されます。

みんなのがんばり

クラスの子どもがミライシードアプリ（オクリンクプラス、ドリルパーク、テストパーク）で頑張ったことが表示されます。

→ 次ページ

目標とふりかえり

クラスの子どもが、子ども用カルテの「目標チャレンジ（p.35）」で登録した目標・ミッションとふりかえりを表示します。

→ p.17

みんなのがんばり

クラスの子どもがミライシードアプリ（オクリンクプラス、ドリルパーク、テストパーク）で頑張ったことが表示されます。「ミライシードのアプリを先週よりたくさん使った」「取り組みがクラスで一番になった」など、小さな変化や地道ながんばりをキャッチできます。

※毎日6時頃に更新されます。過去10日間（当日は含まない）の取り組みをもとに表示しています。

ピックアップ

- 色がついているのは特に注目してほしい子どものがんばりです。
  - …オクリンクプラスでのがんばり
  - …ドリルパークでのがんばり

※ピックアップ対象のがんばりは下記の表を参照

表示されるがんばり項目

過去10日間のがんばりの中で、一番新しい記録が表示されます。色つきの項目がピックアップ対象となります。
※過去10日間にミライシードの活用がない場合はー（ハイフン）が表示されます。

アプリ種別	項目	
ドリルパーク	解き直し回数（全問正解）が…	クラスで一番
		累計数更新
		先週と比較して増加
	連続取組日数が…	累計数更新
	解き直し回数が…	クラスで一番
		累計数更新
		先週と比較して増加
	取組回数が…	クラスで一番
		累計数更新
		先週と比較して増加
	アクセス日数が…	累計数更新
	ドリルパークを起動した	
オクリンクプラス	提出回数が…	先週と比較して増加
		累計数更新
	提出期限内の提出が…	累計数更新
	オクリンクプラスを起動した	
テストパーク	テストパークを起動した	

「がんばりポイント」として、子どもにも表示されます。

※子ども画面では毎日同じ内容にならないよう制御しているため、先生画面と子ども画面で表示される内容が異なる場合があります。
※子ども画面では、「目標達成」「カルテへのログイン」が「がんばりポイント」となることがあります。

▼ 子ども用カルテ トップ画面

目標とふりかえり

- 子ども用カルテで子どもたちが毎週設定する目標・ミッション（p.36）とそのふりかえり（p.40）が表示されます。
- 目標を立てて学習に臨めているか、自分の取り組みをふりかえってメタ認知・評価できているかを確認できます。

目標とふりかえり

児童生徒用カルテで設定した、前週の「目標・ミッション」とそれに対する今週の「ふりかえり」の状況を一覧化しています。

氏名	目標	ミッション	ふりかえり
未来 椎土	国語を頑張る！	ドリルパークの国語のセットを2つ解く	とても頑張れた
○○ ○○	算数を頑張る！	オクリンクプラスの国語の授業で1回提出する	頑張れた
○▽ ○▽	国語を頑張る！	ドリルパークの国語のセットを2つ解く	少し頑張れた
●● ○○	社会を頑張る！	オクリンクプラスの国語の授業で1回提出する	頑張れなかった
●◎ ●◎	設定なし	設定なし	設定なし

‹ 1 2 3 4 5 … 99 ›

目標
頑張る教科などを決める

ミッション
選択した目標に対し、具体的に頑張ることを決める

ふりかえり
目標とミッションに対するふりかえり（５段階で評価）を入力

子ども用カルテでの１週間のサイクル

❶ 週のはじめに

カルテ

目標とミッションを設定

週に１回、目標（「国語を頑張る」等）と、目標に対して具体的に何をするかを決めるミッション（「ドリルパークの国語のセットを2つ解く」等）を設定

▲ 目標　▲ ミッション

❷ その週中に

オクリンクプラス、ドリルパーク

学習に取り組む

❸ 翌週のはじめに

カルテ

ふりかえり

目標に対して頑張れたかどうかをメタ認知し、自ら評価（５段階）

2 単元別に学習データを確認

単元別学習レポート

ミライシードの学習データを**教科書単元ごと**に集約して表示。授業でのプロセスや成果、テスト結果などの客観性のあるデータを材料に、単元ごとの効率的な評価をサポートします。

クラス
クラスをタップすると、クラス一覧が表示されます。

子ども
そのクラスの子どもが表示されています。

単元を変更するには
→ p.23

授業でのプロセスや成果を確認

オクリンクプラス
提出BOXへ提出したカード一覧

その単元の「提出BOX」に提出したカードの一覧です（左上から、提出日が古い順）。
→ 次ページ

授業での評価を確認

B オクリンクプラス
提出BOXへ提出したカードの評価平均

オクリンクプラスで入力したカードへの評価が自動集計されています（平均値を算出）。
→ p.20

自主的な学習および課題への取り組みを確認

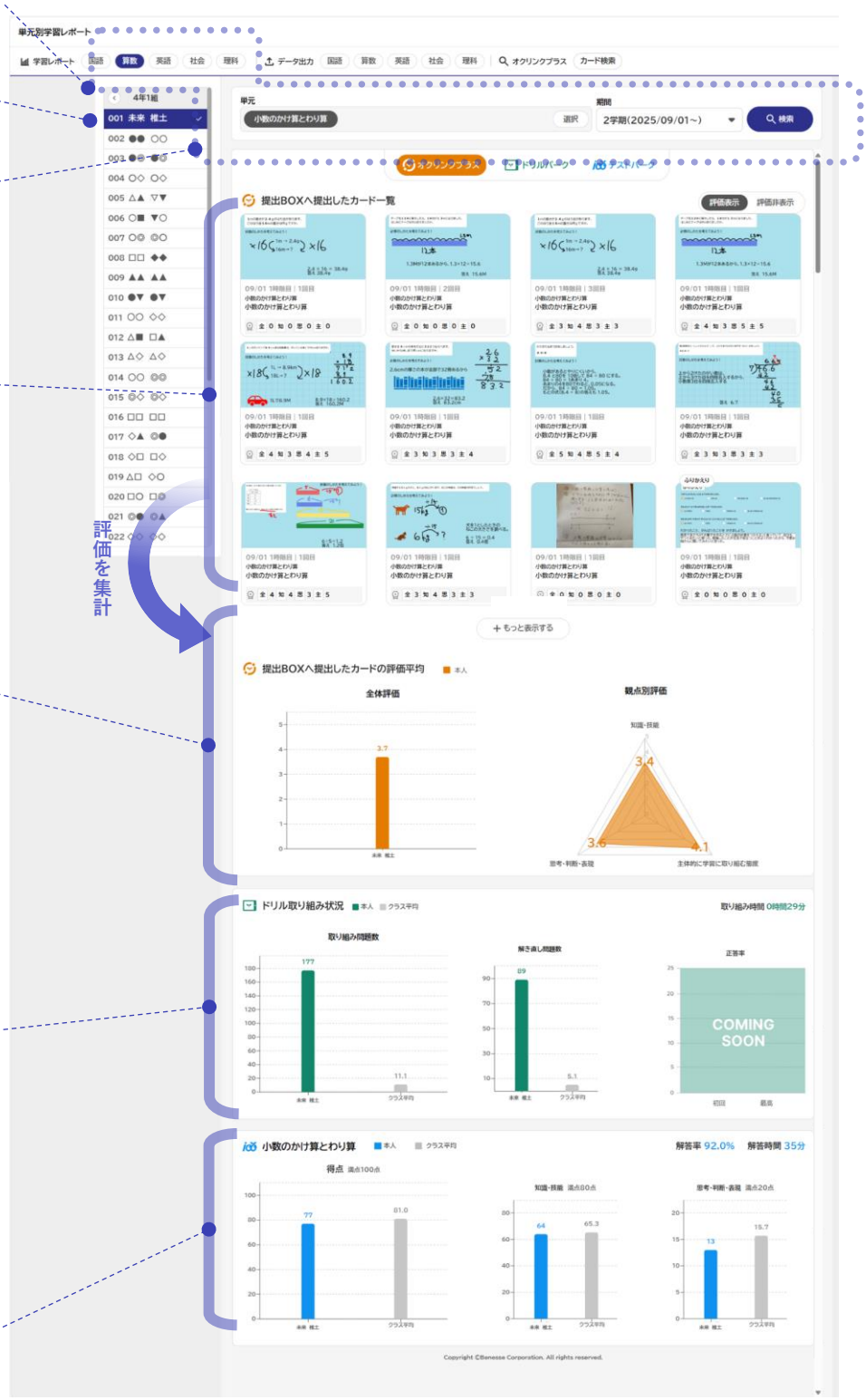
C ドリルパーク
ドリル取組状況

ドリルへの自主的な取り組み状況と、課題ドリルへの取り組み状況がグラフをグラフで可視化しています。
→ p.21

学力の定着度を確認

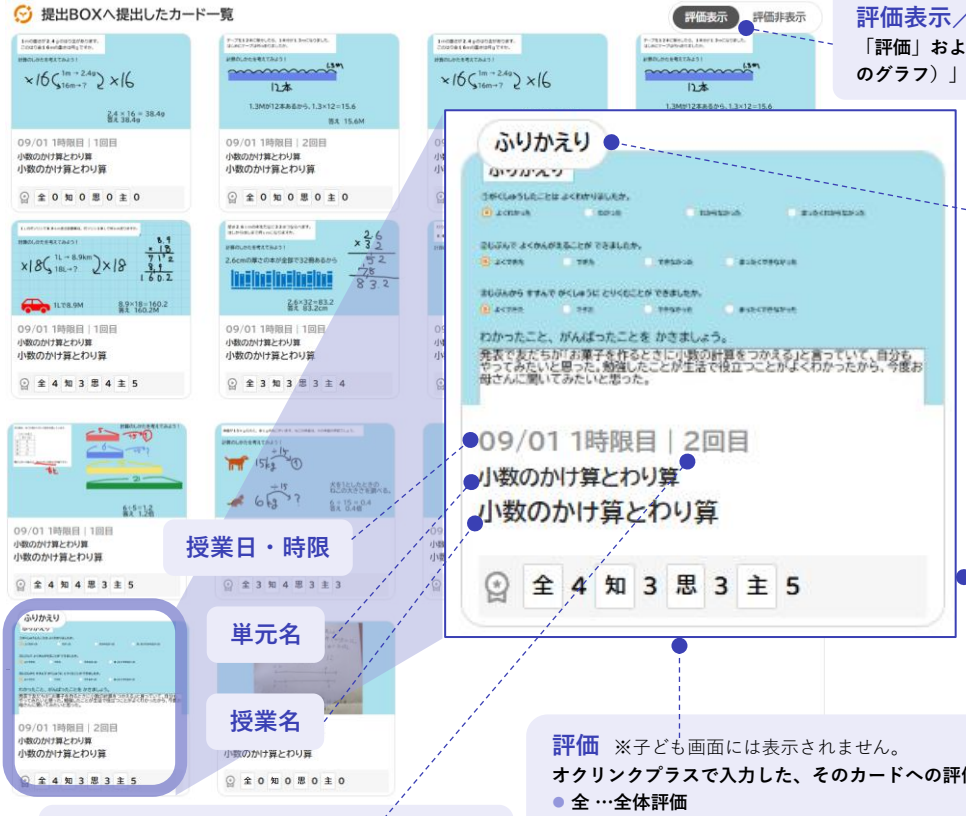
D テストパーク
その単元のテスト

テスト結果をグラフで表示します。その単元のカスタムテスト以外のすべてのテストが表示されます。
※同一テストを複数回配信した場合、初回配信分の成績が表示されます。
→ p.22



A オクリンクプラス 提出BOXへ提出したカード一覧

その単元の「提出BOX」に提出したカードの一覧です。授業でのプロセスや試行錯誤、成果、先生が入力したカードへの評価を個別に確認できます。



評価表示／非表示 ※子ども画面には表示されません。
「評価」および「提出BOXへ提出したカードの評価平均（次ページのグラフ）」の表示・非表示を切り替え

タグ
カードにタグが設定されている場合に表示
（ストーリーの場合は、ストーリー内のカードに含まれるタグをすべて表示）

〉
ストーリーの場合に表示

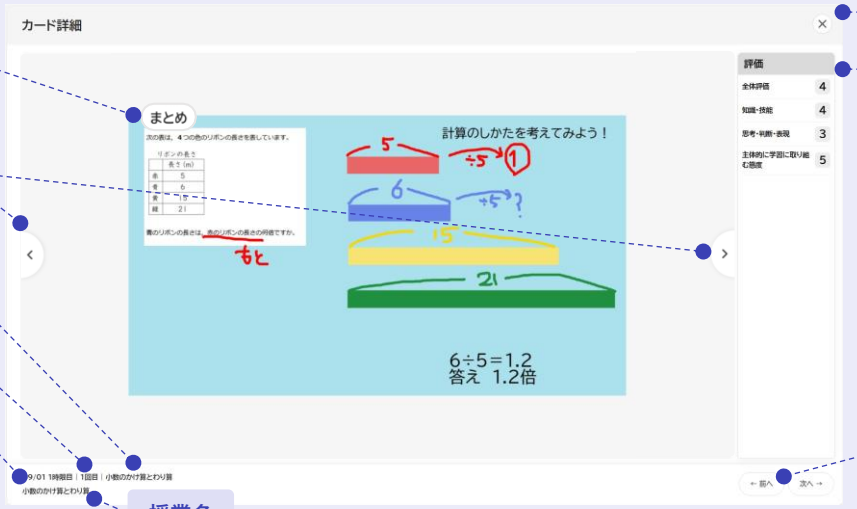
提出カード
カードをタップすると、詳細を拡大して確認

提出回
同じ提出BOXに複数回提出している場合は、そのカードの提出回
※提出回が10回目以上のカードは「9+」と表示されます。
※同じ提出BOXに複数回提出したカードは一覧で横に並びます。

評価 ※子ども画面には表示されません。
オクリンクプラスで入力した、そのカードへの評価
- 全 …全体評価
- 知 …知識・技能
- 思 …思考・判断・表現
- 主 …主体的に取り組む態度
- 任 …任意に設定している評価観点

（任意観点の観点名は「カード詳細」で確認できます。）
※オクリンクプラスで評価の値を変更すると翌日にカルテに反映されます。

カード詳細



タグ
ストーリーの場合のみ 前後に送るボタン
単元名
提出回
授業日・時限
授業名

閉じる

評価
※子ども画面には表示されません。

前へ／次へ
前後の提出カードを表示します。

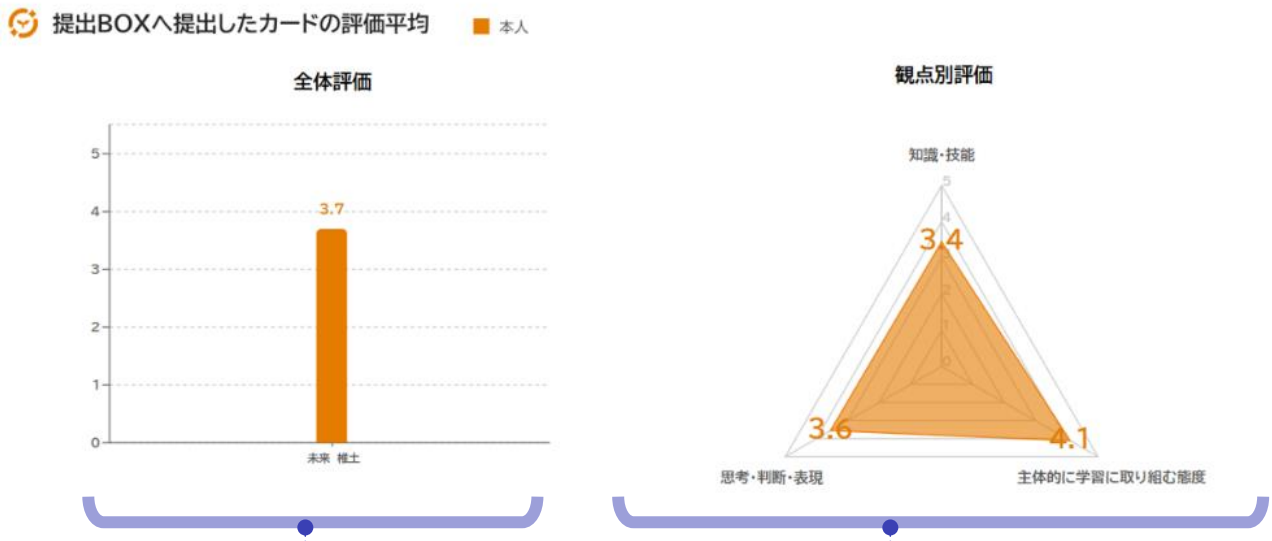
※先生が入力したフィードバックのうち、「ペン」「スタンプ」は表示されません。

カードを検索する場合は ➜p.27 …タグや評価などからカードを検索できます。

B オクリンクプラス 提出BOXへ提出したカードの評価平均

「提出BOXへ提出したカード一覧」に表示されているカードへの評価が自動集計※されています。

※平均値を算出しています。　※子ども画面には表示されないデータです。



全体評価平均

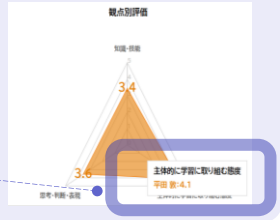
その単元で提出されたカードの評価のうち「全体」の平均値

観点評価平均

その単元で提出されたカードの評価のうち「観点別評価」の平均値

※オクリンクプラスで評価の値を変更すると翌日にカルテに反映されます。

グラフが重なって数値が読み取りにくいときは、グラフをタップすると、数値を大きく表示できます。



A B 共通

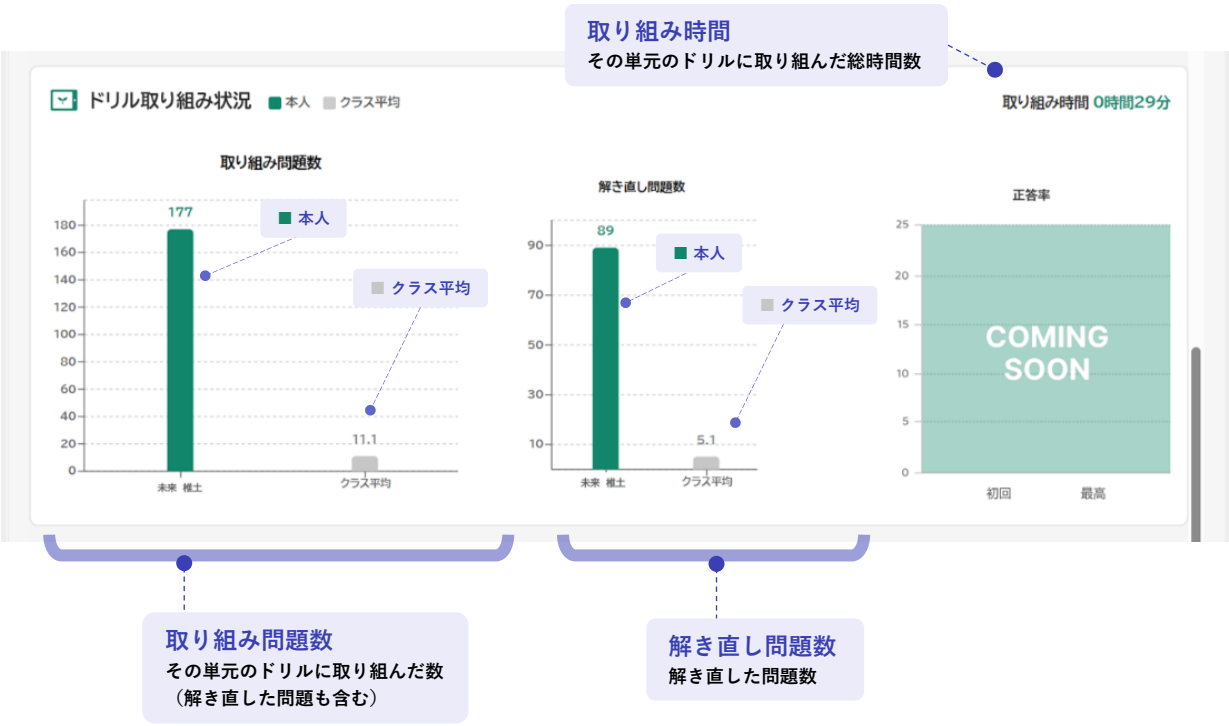
「単元別」で確認するためには

- 単元別に確認するには、オクリンクプラスの**「授業設定」で単元を設定**している必要があります。
- 「授業設定」で単元が設定されていない場合は、「単元別学習レポート」には**「単元情報なし」**として表示されます。
- なお、「授業設定」で教科が設定されていない授業のデータは「カルテ」に表示されません。

▼ オクリンクプラス　授業設定

C ドリルパーク ドリル取組状況

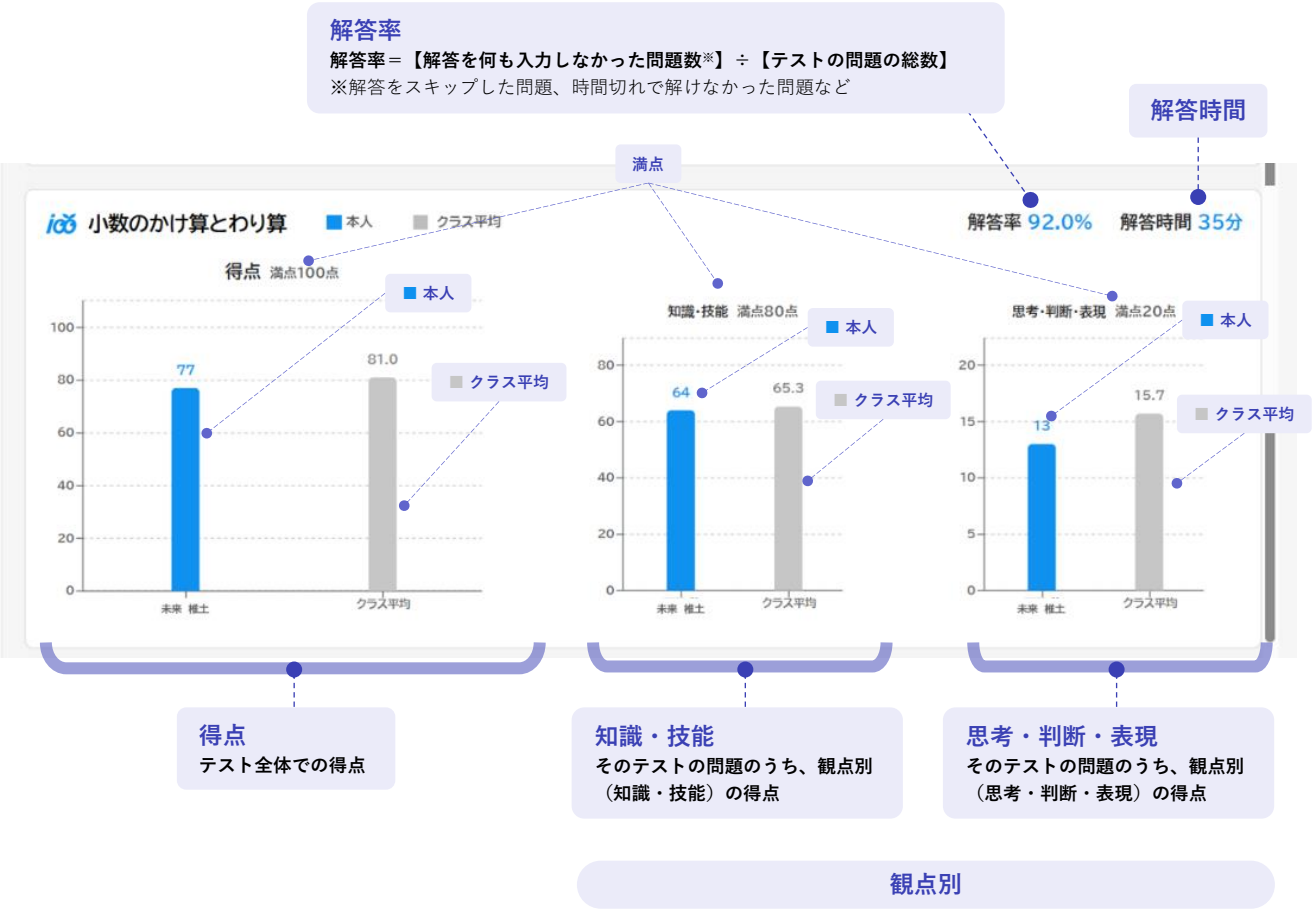
ドリルへの自主的な取り組み状況と、課題ドリルへの取り組み状況がグラフをグラフで可視化しています。
※子ども画面には「クラス平均」が表示されません。



※ドリルパークの練習問題や類題、応用問題は、ドリルパーク・カルテともに取り組み問題数・解き直し問題数ともにカウントされません。
※設定した取り組み時間に合わせ個別最適な問題を配信する機能を使って配信された問題を解いた場合、カルテにはカウントされません。（ドリルパークの学習履歴には反映されます）
※オリジナルドリルは、現在「東京ベーシックドリル」は反映されます。「東京ベーシックドリル」の結果は単元選択で「単元情報なし」を選択すると表示できます。そのほかの一部のオリジナルドリルはカルテに表示されないことがあります。

D テストパーク その単元のテスト

テスト結果をグラフで表示します。その単元のカスタムテスト以外の すべてのテストが表示されます。
※子ども画面には「クラス平均」が表示されません。

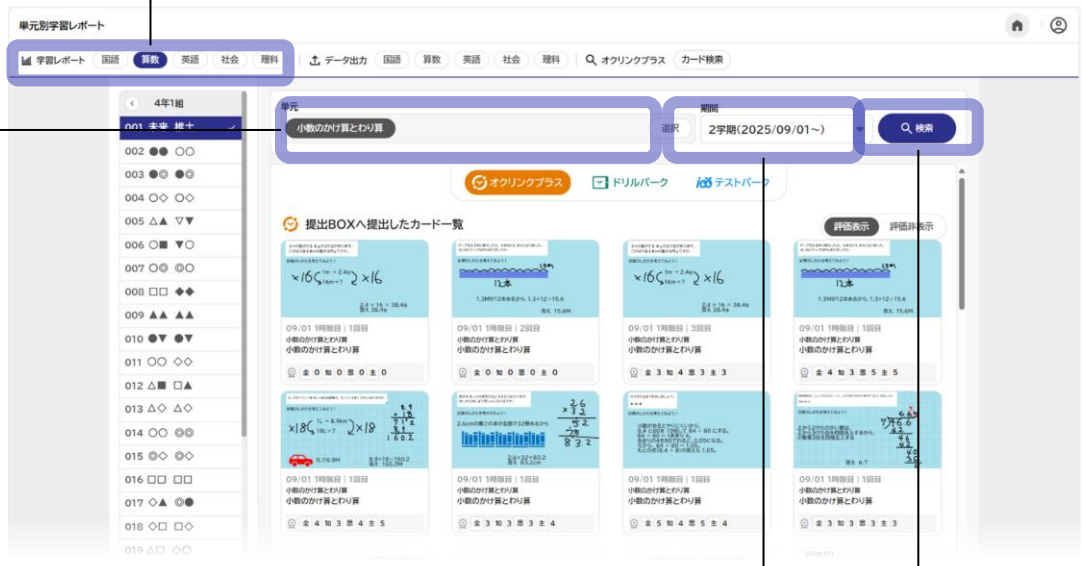


※同一テストを複数回配信した場合は、初回配信分の成績データのみ表示されます。
※実施時と返却時の学期が異なるテストの場合は、期間「通年」を選択するとクラス平均も含めたグラフが表示されます。
期間の選択を「学期」にした場合、実施時の学期のほうにグラフが表示されます（ただし、クラス平均は表示されません）。

単元を変更するには

1 教科名をタップ

2 単元の［選択］をタップ



3 単元を選択

- オクリンクプラスの「授業設定」で単元が設定されていない授業のカード一覧と評価は、**「単元情報なし」**を選択すると表示できます。
- 中学校の「社会」は、単元が地理・歴史・公民の順に表示されます。

4 ［選択する］をタップ

5 期間を選択

学期は、御校管理者が管理者用管理メニューの［学校情報設定］で設定しています。

6 ［検索］をタップ

該当の単元の学習データが表示されます。

3 …… 学習データを出力する

データ出力

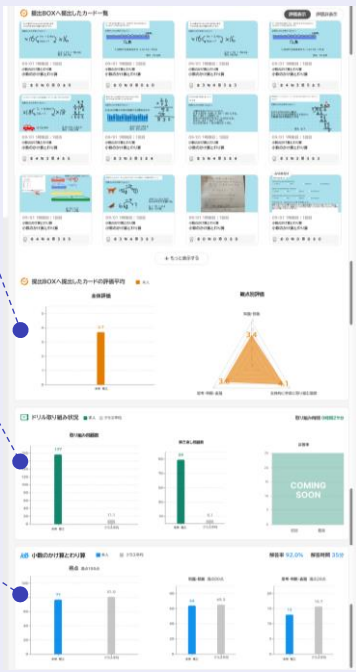
- クラスの学習データを、教科ごとにExcelまたはCSVファイルで出力できます。
  他の成績管理システムへの取り込みや、Excelでの分析にご活用ください。

出力には時間を要します。
データ量によって、出力には**5～60分程度**かかります。データ量は選択する出力項目や、子どもの取り組み数などによって変化します。

- 学習レポート画面に表示されているもののうち、**カード一覧以外のすべてのデータ**を出力できます。

▼ 出力項目選択画面

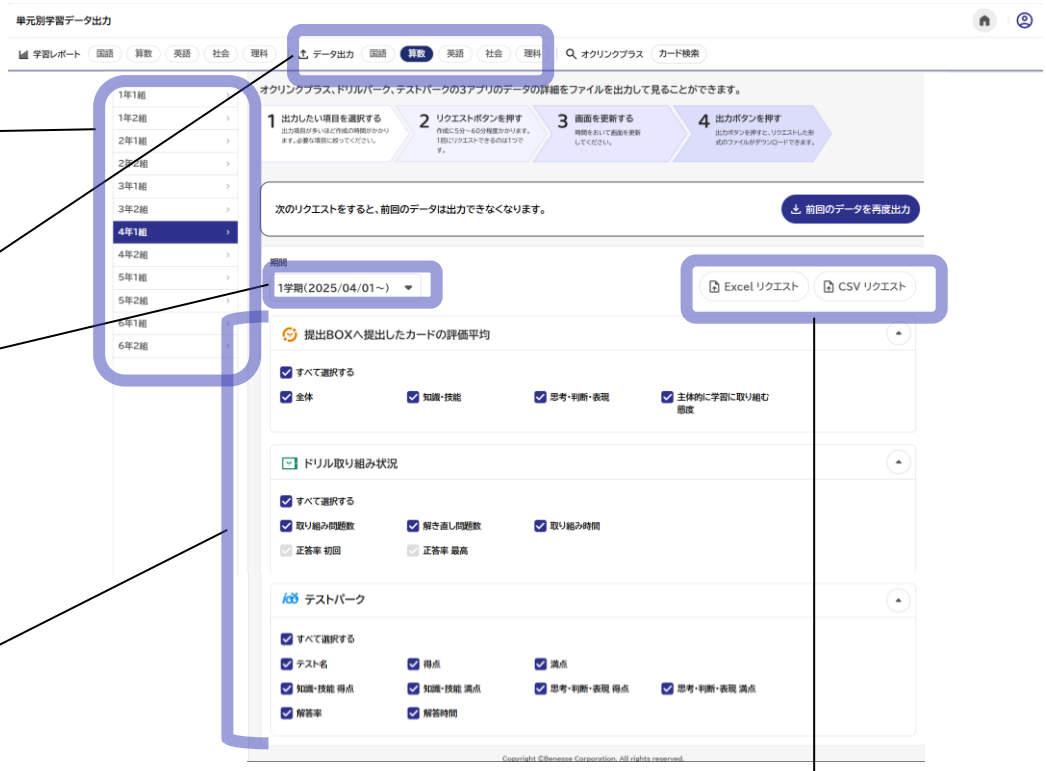
▼ 単元別学習レポート



- **１クラスずつ**出力します。子ども1人ずつは出力できません。
- 期間は「**通年**」または「**各学期ごと**」を選択できます。

▼ 出力サンプル（Excelファイルの場合）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	年	組	番号	氏名	教科	単元	オクプラ_全体	オクプラ_知識・技能	オクプラ_思考・判断・知識	オクプラ_主体的に学習に取り組む態度	ドリパ_取り組み問題数
2	4	1	1	未来 椎土	算数	小数のかけ算とわり	3.7	3.4	3.6	4.1	177
3	4	1	2	○○ ○○	算数	小数のかけ算とわり	1.9	0.7	1.1	3.9	80
4	4	1	3	○▽ ○▽	算数	小数のかけ算とわり	2.3	3.1	3.8	0.0	94
5	4	1	4	●● ○○	算数	小数のかけ算とわり	2.0	0.0	2.8	3.1	53
6	4	1	5	●◎ ●◎	算数	小数のかけ算とわり	3.2	3.4	1.7	4.4	87
7	4	1	6	○◎ ◎○	算数	小数のかけ算とわり	1.5	1.7	1.6	1.3	43
8	4	1	7	▲▲ ▲▲	算数	小数のかけ算とわり	1.6	0.9	2.8	1.0	57
9	4	1	8	□◎ ○△	算数	小数のかけ算とわり	2.3	2.5	1.5	2.7	52



1 クラスを選択

2 教科名をタップ

3 期間を選択

学期は、御校管理者が管理者用管理メニューの［学校情報設定］で設定しています。

4 出力する項目を選択

5 ［Excelリクエスト］または［CSVリクエスト］をタップ

- いずれか出力したいファイル形式のボタンをタップします。
- リクエスト後、ダウンロードできるようになるまで５～60分程度（データ量による）の時間を要します。

⚠ **リクエスト中には、他のデータ出力をリクエストできません。**

6 5～60分後、ブラウザを更新

- ブラウザの更新ボタンをタップして、画面を更新してください。

⚠ **自動では表示が更新されませんので、手動で更新してください。**

- 画面に「**データの出力の準備ができました**」のメッセージが表示されたら、⑦へ進んでください。

7 ［出力］をタップ

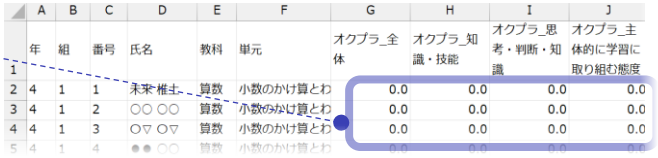
- ブラウザ既定の場所にファイルがダウンロードされます。
- 出力ファイル名は、「学年・クラス_ 教科_ 期間」です。（例：1年2組_国語_3学期.xlsx）

出力ファイルの見方

出力ファイル上では、一部データは下記のように表示されます。

オクリンクプラス

- **評価データが入力されていない場合**
  - ➡ 評価平均欄に「**0**」が表示されます。

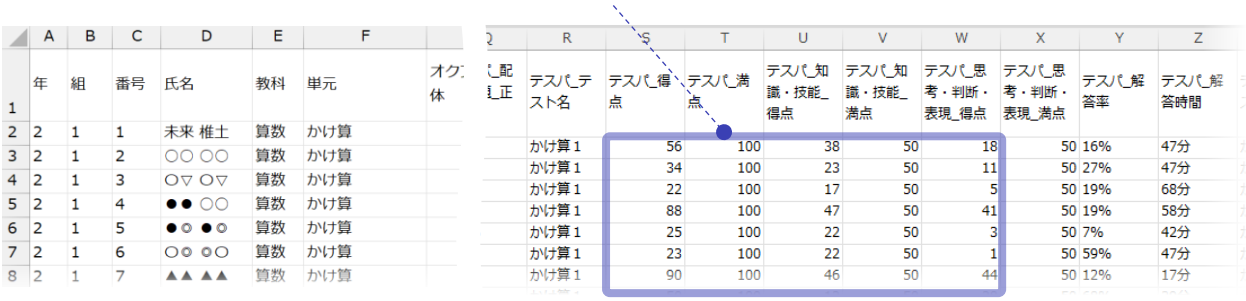


	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	年	組	番号	氏名	教科	単元	オクプラ_全体	オクプラ_知識・技能	オクプラ_思考・判断・知識	オクプラ_主体的に学習に取り組む態度
2	4	1	1	未来 椎土	算数	小数のかけ算とわ	0.0	0.0	0.0	0.0
3	4	1	2	○○ ○○	算数	小数のかけ算とわ	0.0	0.0	0.0	0.0
4	4	1	3	○▽ ○▽	算数	小数のかけ算とわ	0.0	0.0	0.0	0.0
5	4	1	4	●● ○○	算数	小数のかけ算とわ	0.0	0.0	0.0	0.0

テストパーク

- **その単元に複数テストがある場合**
  - ➡ **最大20テスト**まで出力されます。

- **得点欄に記号が表示されている場合**
  - ➡ そのテストが**実施されていない**ときは、「＊」が表示されます。
  - ➡ 子どもがそのテストを**受けていない**ときは、「-」が表示されます。



	A	B	C	D	E	F	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
1	年	組	番号	氏名	教科	単元	テスパ_テスト名	テスパ_得点	テスパ_満点	テスパ_知識・技能_得点	テスパ_知識・技能_満点	テスパ_思考・判断・表現_得点	テスパ_思考・判断・表現_満点	テスパ_解答率	テスパ_解答時間
2	2	1	1	未来 椎土	算数	かけ算	かけ算 1	56	100	38	50	18	50	16%	47分
3	2	1	2	○○ ○○	算数	かけ算	かけ算 1	34	100	23	50	11	50	27%	47分
4	2	1	3	○▽ ○▽	算数	かけ算	かけ算 1	22	100	17	50	5	50	19%	68分
5	2	1	4	●● ○○	算数	かけ算	かけ算 1	88	100	47	50	41	50	19%	58分
6	2	1	5	●◎ ●◎	算数	かけ算	かけ算 1	25	100	22	50	3	50	7%	42分
7	2	1	6	○◎ ◎○	算数	かけ算	かけ算 1	23	100	22	50	1	50	59%	47分
8	2	1	7	▲▲ ▲▲	算数	かけ算	かけ算 1	90	100	46	50	44	50	12%	17分

前回の出力データは、次のデータをリクエストするまでダウンロードできます。

4 …… オクリンクプラスのカードを検索する

カード検索

その子どもが「提出BOX」に提出したカードから、特定の条件に合致するカードを検索できます。
特定の**単元**（複数選択可）や、特定の**タグ**、**評価**など、さまざまな条件を組み合わせることができます。

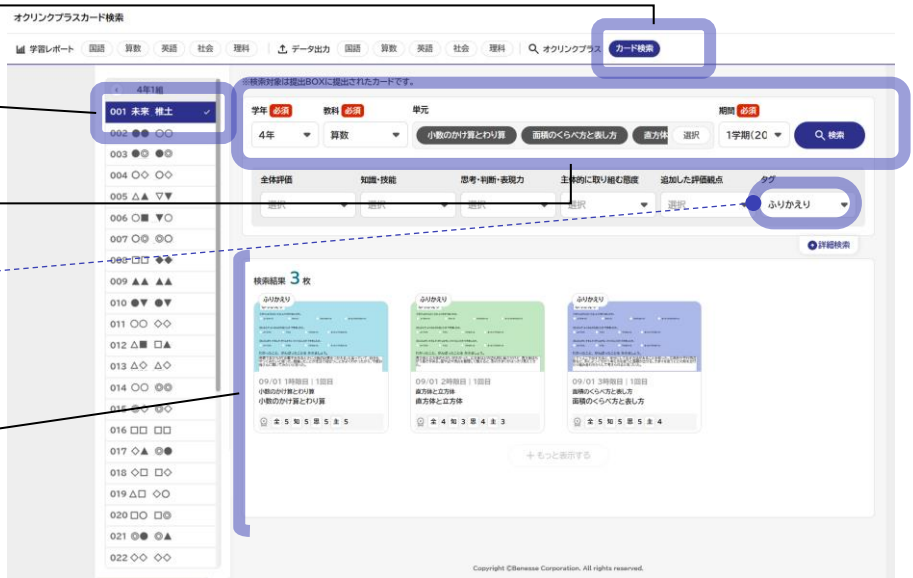
検索できる項目

- **学年** 必須
- **教科** 必須
- **単元**（複数選択可）
- **期間** 必須
- **評価**
  - 全体評価
  - 知識・技能
  - 思考・判断・表現力
  - 主体的に取り組む態度
  - 独自に追加した評価観点
- **タグ**
  - めあて
  - まとめ
  - ふりかえり
  - 黒板

1. **［カード検索］をタップ**
2. **子どもを選択**
3. **検索条件を設定し、［検索］をタップ**

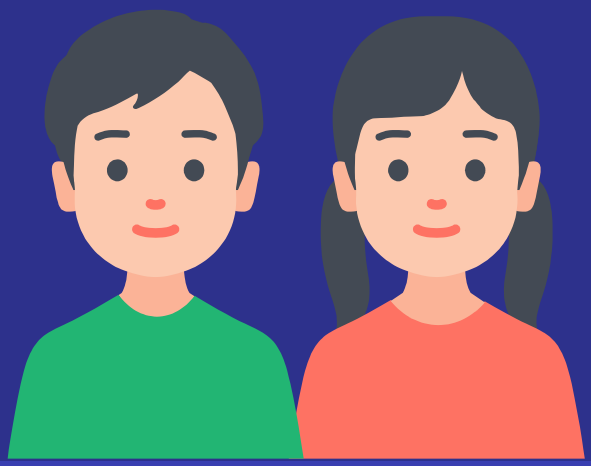
評価やタグで検索する場合は、**［詳細検索］**をタップして詳細条件を表示して設定してください。

- **検索結果**が表示されます。
- カードの提出日が古い順に並びます。
- カードの見方はp.19と同様です。
- カードをタップすると、詳細画面（右図）が表示されます。表示される内容はp.19と同様です。



▼ カード詳細画面

子どもが使う



子どもができること …… p.29
1 カルテを開く（子ども用カルテ トップ画面） …… p.30
2 学習のふりかえり（単元別学習レポート） …… p.34
3 目標とふりかえり（目標チャレンジ） …… p.35
4 集めた「リーフ」を「お宝」と交換（お宝交換・図鑑を見る） …… p.41

子どもができること

1 カルテを開く

子ども用カルテ　トップ画面

毎日利用するきっかけに

カルテを開くと、日々の取り組みに応じて「がんばりポイント」や獲得した報酬を表示。自分のがんばりが可視化され、日々の学習に対するモチベーションや自己肯定感の向上を支援します。

→ p.30

2 学習のふりかえり

単元別学習レポート

単元別のふりかえりに

自分がこれまで取り組んだ内容を単元ごとに一覧できるので、効率的に学習をふりかえれます。
自分の成長や課題点をデータから見出し次の学習に活かす、自律的な学習を支援します。

→ p.34

3 目標とふりかえり

目標チャレンジ

学習習慣の定着に

毎週、目標を立て、目標を達成するための「ミッション」としてミライシードの学習にチャレンジ。目標に対してふりかえり、次の学習へ活かします。毎日の学習のきっかけに。

→ p.35

4 集めた「リーフ」を「お宝」と交換

お宝交換・図鑑を見る

毎日利用するきっかけに

「目標チャレンジ」での目標達成やふりかえり、ミライシードの学習アプリでのさまざまな取り組みで「リーフ」を獲得し、「お宝」と交換。ゲーム的な要素で学習継続をサポートします。

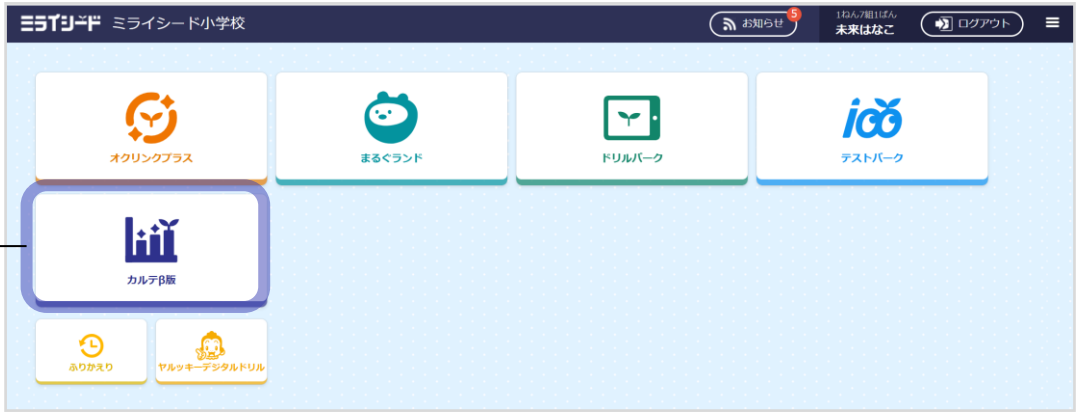
→ p.41

1 …… カルテを開く

子ども用カルテ トップ画面

1 子どものポータル画面で［カルテ］をタップ

▼ ミライシード　ポータル画面



カルテのホーム画面が表示されます。

学習レポート → p.34

目標チャレンジ → p.35

キミのがんばりポイント

毎日、子どもの取り組みから褒め・励ましのポイントを検知し、「がんばりポイント（p.32）」として提示します。
「取り組み回数が増えた」「先週よりがんばった」「クラスで一番になった」など小さな積み重ねや成果を褒めることで、自分でも気付きにくい成長や努力を認識し、継続のモチベーションや自己肯定感の向上につながります。

お宝交換・図鑑を見る → p.41

さまざまな活動で「リーフ」を獲得し、「お宝」と交換します。交換した「お宝」は「図鑑」にコレクションされていきます。

- **初めてカルテを開くとき**は、チュートリアルが表示されます。→次ページ
- **２回目以降に「カルテ」を開くとき**は、時期や取り組み状況に応じてさまざまな通知が表示されます。→p.32

初めてカルテを開いたときに表示されるチュートリアル

チュートリアルは初回のみ表示されます。
合計５つの画面で構成されており、［次へ］をタップして読み進めます。

1 カルテの世界へようこそ

2 学習を進めて、お宝をコンプリートしよう！

3 目標とミッションを設定しよう！

4 目標をふりかえろう！

5 目標達成してお宝ゲット！

2回目以降に「カルテ」を開くとき

「カルテ」を開いたときに、時期や取り組み状況などに応じてさまざまな通知が表示されます。

▼ミライシード　ポータル画面

目標を達成したとき
（初回から6回目のクリアまでに限る）

「目標チャレンジ」での6回目の目標達成までは「お宝」を獲得。獲得した「お宝」が表示されます。

→「お宝」とは（次ページ）

がんばりポイント
（１日に１回）

オクリンクプラスやドリルパークなどでの取り組みを「がんばりポイント」として褒める画面が表示されます。

※１人で複数のミライシードアカウントを利用している場合、その日最初に「カルテ」を表示したアカウントにのみ表示されます。

獲得したリーフがあるとき
（１日に１回）

獲得したリーフがある場合に、「どのアクションで、何枚獲得したか」の一覧が表示されます。

→「リーフ」とは（次ページ）

図鑑のステージが変わるとき
（約４ヶ月に１回）

図鑑のステージは約４ヶ月に１度変わります。新しいステージになったことを画面で通知します。

→「図鑑」とは（次ページ）

毎週、最初にカルテを開くとき
（毎週月曜の６時以降）

「目標チャレンジ」における前週の目標に対して、頑張れたかどうかのふりかえりを登録します。

→ p.40

「報酬」とは？

- 「目標チャレンジ」での目標達成や、ドリルパークなどのアプリを活用することで「報酬」を獲得できます。「カルテを開く」などのアクションだけでも獲得できるため、毎日学習に向かうきっかけになります。
- 報酬には「お宝」と「リーフ」の２種類があります。

お宝

- **初回から6回目までの目標達成**、または**「リーフ」と交換**して獲得します。
- 「リーフ」と交換して獲得する場合は、そのときの図鑑テーマに沿った「お宝」がランダムで付与されます。「★」の数（１～３個）で示されるレア度によって出現確率が異なります。また、同じ「お宝」が重複することもあります。（初回から６回目までの目標達成で獲得する「お宝」は重複しません。）
- 獲得した「お宝」は自動で**「図鑑」に収録**されます。

リーフ

- **目標達成**のほか、**いろいろな条件達成**で「リーフ」を獲得できます。

条件
- **カルテを開いた** …50枚
- **ミライシードの対象アプリを開いた**※1…50枚
- **目標を達成した**※2 … 350枚
- **ふりかえり**※3**をした** …250枚

※1： 対象アプリは、オクリンクプラス、ドリルパーク。複数の対象アプリを開いても、１日に付与するリーフ数は50枚まで。
※2： 7回目以降の目標達成で獲得。
※3： 前の週に設定した目標に対する自分の取り組みへのふりかえり（p.40）。

- たまった「リーフ」は、**「お宝」と交換**できます。
➜交換するには p.41

図鑑

- 約４ヶ月おきに図鑑のステージが、１年ごとに図鑑のテーマが変わります。

▼ β版の図鑑のテーマ、ステージ例

※子どもカルテβ版は一部の自治体・学校のみの表示となります。

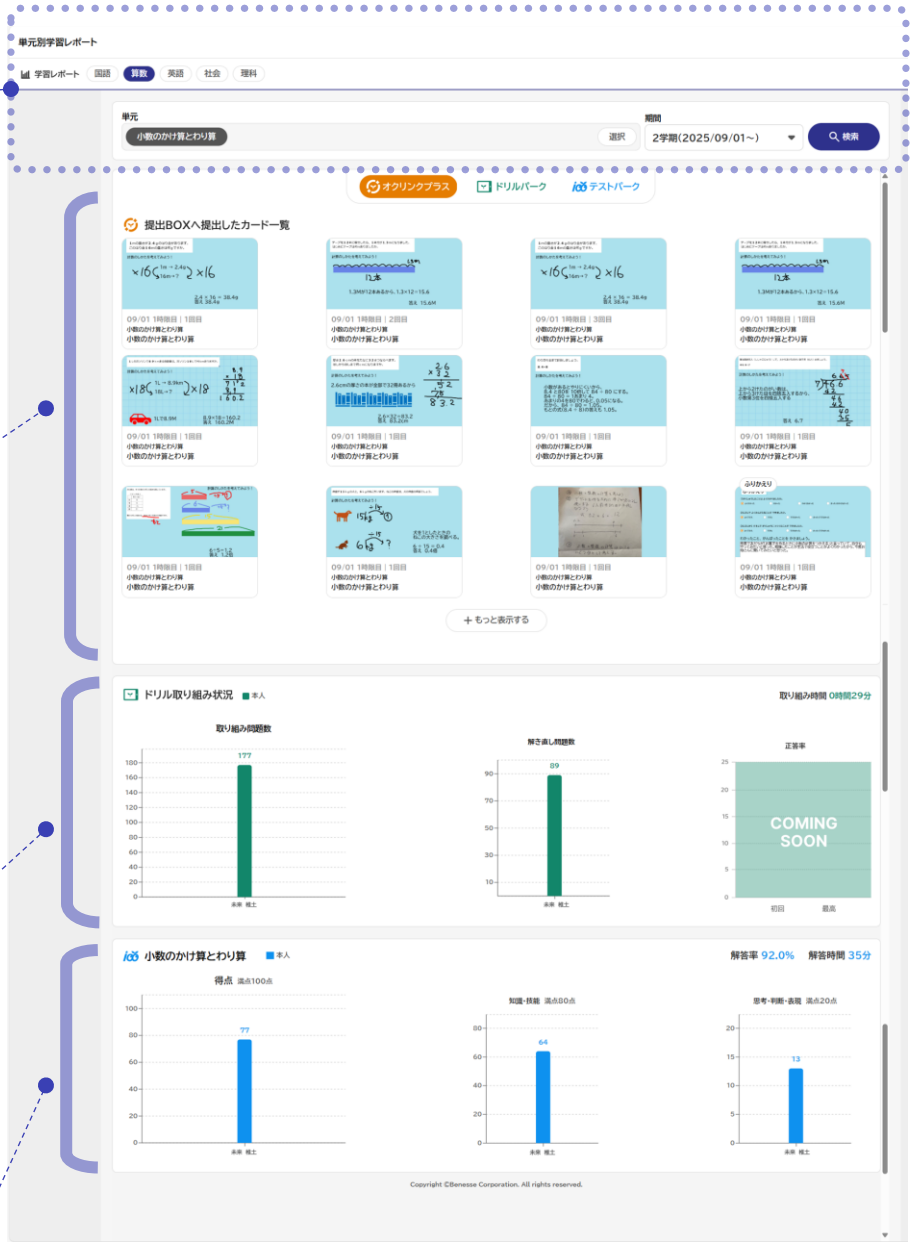
2 学習のふりかえり

単元別学習レポート

自分がこれまで取り組んだ内容を**単元ごと**に一覧できるので、効率的に学習をふりかえれます。
自分の成長や課題点をデータから見出し次の学習に活かす、自律的な学習を支援します。

※子どもには提出BOXへ提出したカードの評価平均、ドリルとテストのクラス平均は表示されません。

単元を変更するには
※手順は先生と同様です。
→ p.23



授業でのプロセス・成果をふりかえる

A オクリンクプラス
提出BOXへ提出したカード一覧

その単元の「提出BOX」に提出したカードの一覧です。
→ p.19 先生のAと同じ

自分の成長を見取る

B ドリルパーク
ドリル取組状況

ドリルへの自主的な取り組み状況をグラフで可視化しています。
→ p.21 先生のCと同じ

学力の定着度を確認

C テストパーク
その単元のテスト

テスト結果をグラフで表示します。その単元のすべてのテストが表示されます。
→ p. 22 先生のDと同じ

3 …… 目標とふりかえり

目標チャレンジ

毎日の学習のきっかけに。楽しみながら自律的学習を育む

「目標チャレンジ」では、毎週、目標を立て、目標を達成するための「ミッション」としてミライシードの学習にチャレンジします。学習を終えたら、目標に対するふりかえりを行います。「目標」を達成すると、「お宝」(アイテム)を獲得できます。「お宝」を集めて、自分の「図鑑」の完成を目指します。

1 目標とミッションを設定 週に１回 … p.36

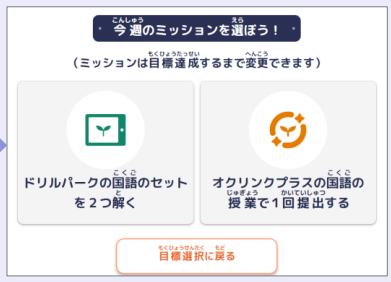
- 週に１回、目標とミッションを設定します。目標は１度設定すると次の週まで変更できません。
- 選択した目標に応じて、ミッション（具体的に何に取り組むか）を決定します。

※授業などの変更により、やむを得ずミッションに取り組めないときには、ミッションを変更できます。
※毎週月曜の6時頃に更新されて新しく設定できるようになります。

▼何を**目標**にするか、選択肢の中から決定

例）「国語を頑張る」「計算を頑張る」など

▼**ミッション**（何に取り組むか）を選択肢の中から決定



例）「ドリルパークの国語のセットを2つ解く」など

2 ミッションにチャレンジ … p.39

- オクリンクプラスやドリルパークで、ミッションにチャレンジします。
- ミッションを完了することで目標達成となり、**報酬（p.34）**を獲得できます。

報酬獲得！

※最初の6回までは「お宝」、7回目以降は「リーフ」を獲得

3 ふりかえり 翌週に … p.40

- 翌週に、まずは前回の目標とミッションについてふりかえりを登録します。
- ふりかえりにより、目標について頑張れたかどうかをメタ認知する習慣と力を育みます。

※毎週月曜の6時頃に更新されます。

「お宝」は「図鑑」に収録！

最初の６回の目標達成や、「リーフ」と交換して獲得した「お宝」は「図鑑」に収録されます。たくさん集めて、その時期のテーマの「お宝」のコンプリートを目指します。➜**リーフとの交換方法 p.41**

収録

▼図鑑

1 目標とミッションを設定

週に１回

- 週に１回（毎週月曜６時以降に初めてログインした時）、**目標**を選択します。目標は１度設定すると次の週まで変更できません。
- 選択した**目標**に応じて、**ミッション**（具体的に何に取り組むか）を決定します。

目標とミッションを設定する

1 ［目標＆ミッションを設定する］をタップ

※すでに目標が設定されている場合は、設定した目標とミッションが表示されます。

ステージ
現在のステージが表示されます。約4ヶ月でステージが変わります。各ステージで「お宝」を集め、そのステージの図鑑のコンプリートを目指します。

目標の進捗状況
「STEP１ 目標＆ミッション設定」「STEP２ ミッションチャレンジ中」「STEP３ 目標達成」の３ステップのうち、どの段階なのか確認できます。

▼ カルテ　ホーム画面

お宝獲得数
現在の図鑑テーマにおける「お宝」の獲得数をグラフと数字で表示します。
※重複した「お宝」はカウントされません。

図鑑を見る
図鑑を表示します。
→ p.42

所持リーフ数
現在所持しているリーフ数が表示されます。

お宝交換
所持しているリーフを「お宝」と交換できる画面を表示します。
→ p.41

2 今週の目標にする教科をタップ

目標には、特定の教科のほか、「暗記」や「計算」、「漢字」など特定の分野も設定できます。

目標例

- **特定の教科を目標にする場合**
  - ・国語を頑張る！
  - ・算数を頑張る！　など
- **特定の分野を目標にする場合**
  - ・漢字を頑張る！
  - ・計算を頑張る！
  - ・暗記を頑張る！　など

目標に即したミッションが表示されます。
※目標によってはミッションが1つしか表示されない場合があります。

3 任意のミッションをタップ

ミッションには、オクリンクプラスまたはドリルパークでの取り組みが表示されます。

ミッション例

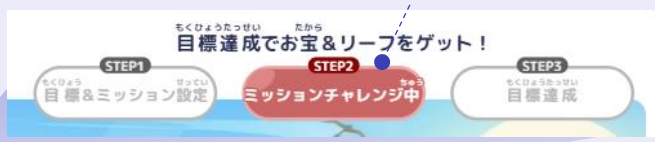
- **オクリンクプラス**
  - ・授業で一回提出
- **ドリルパーク**
  - ・国語のセットを２つ　　など

4 選択した目標とミッションを確認

5 ［決定する］をタップ

これで、目標とミッションの設定は完了です。

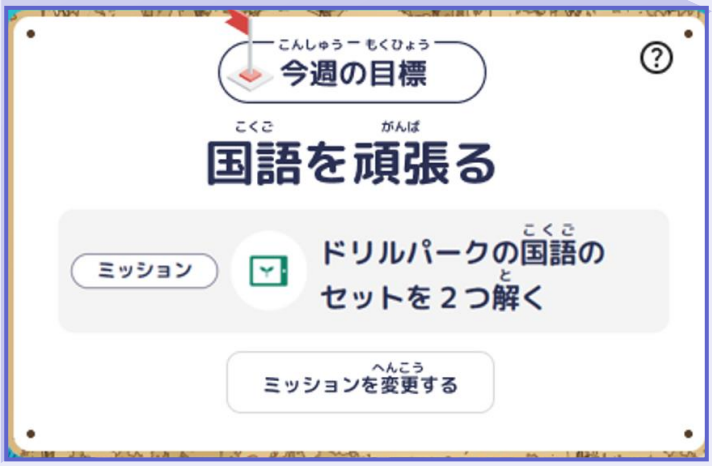
目標進捗エリアの「STEP1 目標＆ミッション設定」が完了し、「**STEP２ ミッションチャレンジ中**」のステータスになります。



▼ カルテ　ホーム画面

目標とミッションも表示されます。
ミッションを変更する場合は［ミッションを変更する］をタップします。

➔ **次ページ**



ミッションを変更する

- 授業などの変更により、やむを得ずミッションに取り組めないときには、ミッションを変更できます。

▼ カルテ　ホーム画面

1 ［ミッションを変更する］をタップ

2 任意のミッションをタップ

3 ［決定する］をタップ

2 ミッションにチャレンジ

- p.37で選択した**ミッション**に取り組みます。

オクリンクプラス、ドリルパークなどでミッションに取り組みます。

▼ ミライシード　ポータル画面

設定した目標とミッションは、「カルテ」のホーム画面で確認できます。

▼ カルテ　ホーム画面

ミッションをクリアすると…

- ミッションをクリアすると目標達成となります。次回（翌日６時以降）の「カルテ」表示時に、目標達成の報酬として「**お宝**」または「**リーフ**」を獲得します。

お宝 ▶

最初の6回までの目標達成で獲得

リーフ ▶

7回目以降の目標達成は「リーフ」を獲得

→ **リーフの交換 p.41**

- また、進捗エリアの「STEP２ ミッションチャレンジ中」が完了し、「**STEP3 目標達成**」のステータスになります。

▼ カルテ　ホーム画面

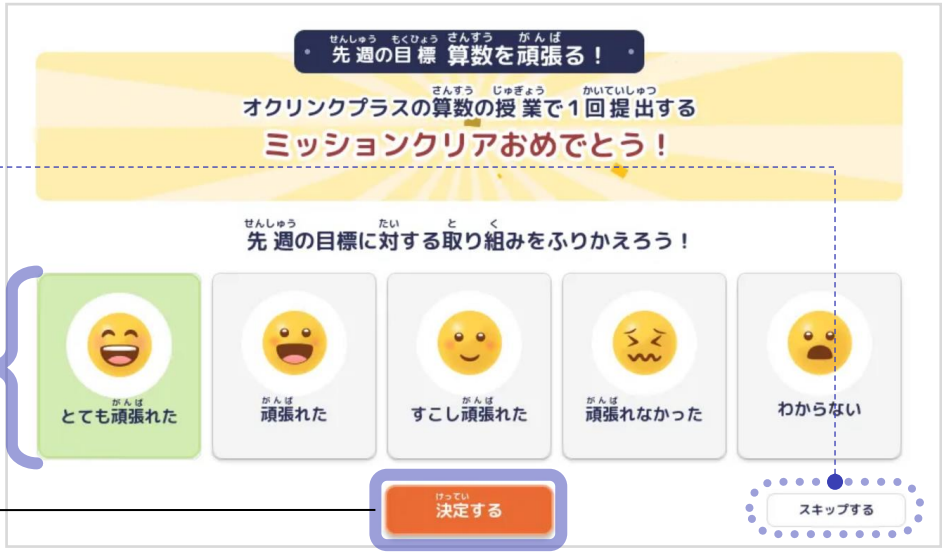
目標達成マークも表示されます。

3 ふりかえり

翌週に

- 目標を設定している場合、翌週に「カルテ」を開くと、「**ふりかえり**」画面が表示されます。（前の週に目標を設定していない場合は表示されません。）
- 先週の目標に対する自分のがんばりを、**5つの選択肢（とても頑張れた／頑張れた／すこし頑張れた／頑張れなかった／わからない）**の中から選び、ふりかえりとします。
- ふりかえりを登録すると、報酬（リーフ）を獲得できます。

［スキップする］でふりかえりをスキップできますが、スキップすると報酬（リーフ）は獲得できません。



1 **ふりかえりを選択**

2 **［決定する］をタップ**

これで、目標設定からふりかえりまでの一連の流れは完了です。

［目標＆ミッションを設定する］をタップして、**今週の目標とミッション**を設定します。
➔p.36

▼ カルテ　ホーム画面

ふりかえりを登録すると…

次回（翌日６時以降）の「カルテ」表示時に、報酬（リーフ）を獲得します。

4 …… 集めた「リーフ」を「お宝」と交換

お宝交換・図鑑を見る

- 獲得した「リーフ」100枚で、１個の「お宝」と交換できます。交換した「お宝」は自動で図鑑に登録されます。
  ※「報酬」とは？➜p.33
- 「お宝」を図鑑に集めて、コンプリートを目指します。

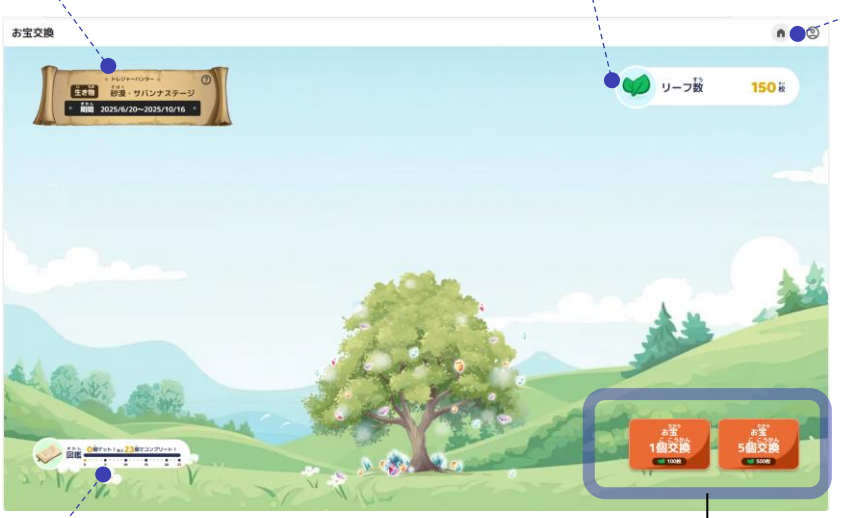
▼ カルテ　ホーム画面

1 ［お宝交換］をタップ

図鑑のステージ
現在のステージ（図鑑の種類）が表示されます。約４ヶ月でステージが変わります。

所持リーフ数
現在所持しているリーフ数が表示されます。

ホームに戻る
「カルテ」のホーム画面に戻ります。



お宝獲得数
現在の図鑑のステージにおける「お宝」の獲得数をグラフと数字で表示します。

2 ［1個交換］または［5個交換］をタップ

「お宝」が表示されます。獲得した「お宝」は図鑑に登録されます。➜次ページ

▼ 1個交換の場合

▼ 5個交換の場合

お宝交換画面に戻る
❶の画面に戻ります。

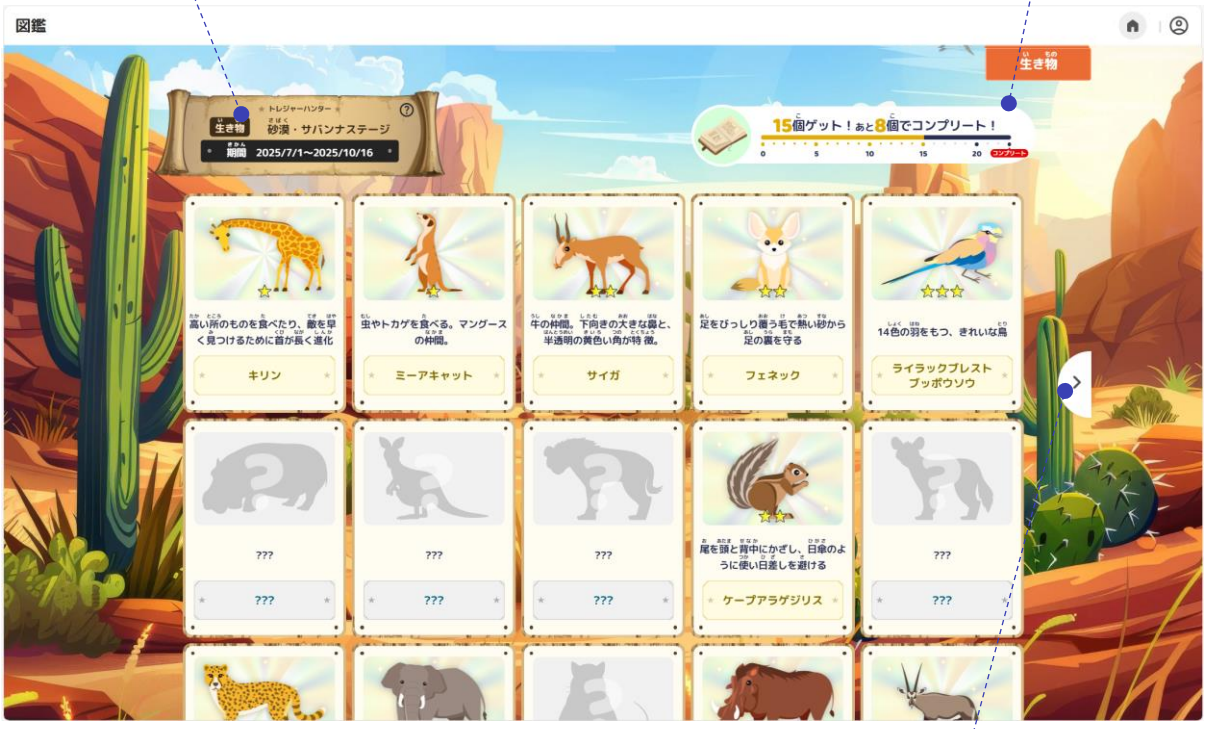
もう一度お宝交換する
「リーフ」がある場合は続けてお宝交換できます。

図鑑を見る
➜ 次ページ

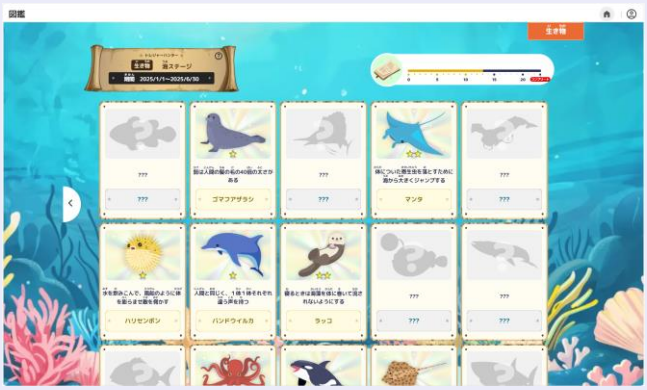
「図鑑」の見方

現在のステージ名
現在の「お宝」のステージ名が表示されます。

お宝獲得数
現在のステージにおける「お宝」の獲得数をグラフと数字で表示します。



ステージ切り替え
別のステージに切り替えます。



著作権について

著作権について

教材をご利用いただくに当たっての、「著作権」に関するご確認事項を記載しております。
必ずお読みください。

2025/10 ベネッセコーポレーション 小中学校事業本部

1　本教材の著作権につきまして

- 本教材の著作権は、株式会社ベネッセコーポレーションに帰属します。
- 教材内で使用しています一部の文章・写真等の著作権は、当該著作物の著作権者に帰属します。
- 本教材の複製・修正に際しましては、著作権法で定めます許諾の不要なケースを除き、弊社及び著作権者への許諾申請をお願いします。

【許諾の不要なケース(一部)】
・私的使用のための複製（第30条）
・図書館等における複製（第31条）
・引用（第32条）
・教育機関における複製等（第35条）
・試験問題としての複製等（第36条）

2　学校教育で認められている複製等につきまして

- 上記の「許諾の不要なケース」の内、「著作権法第35条」で規定されています、教育機関で認められている他者の著作物の使用につき、次ページでポイントを絞ってご説明します。
- 詳細は、次々ページに掲載しています運用指針をご確認ください。
- 最新の情報については https://sartras.or.jp/unyoshishin/ をご確認ください。
- なお、「著作権法第35条」は下のとおりです。

著作権法第35条 （学校その他の教育機関における複製等）

学校その他の教育機関（営利を目的として設置されているものを除く。）において教育を担任する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における利用に供することを目的とする場合には、その必要と認められる限度において、公表された著作物を複製し、若しくは公衆送信（自動公衆送信の場合にあつては 送信可能化を含む。以下この条において同じ。）を行い、又は公表された著作物であつて公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該複製の部数及び当該複製、公衆送信又は伝達の態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

2 前項の規定により公衆送信を行う場合には、同項の教育機関を設置する者は、相当な額の補償金を著作権者に支払わなければならない。

3 前項の規定は、公表された著作物について、第一項の教育機関における授業の過程において、当該授業を直接受ける者に対して当該著作物をその原作品若しくは複製物を提供し、若しくは提示して利用する場合又は当該著作物を第38条第1項の規定により上演し、演奏し、上映し、若しくは口述して利用する場合において、当該授業が行われる場所以外の場所において当該授業を同時に受ける者に対して公衆送信を行うときには、適用しない。

※著作権法の定めにより、授業目的公衆送信補償金制度は著作隣接権に対しても準用されます。
※「引用」などの権利制限規定が適用される場合には、無許諾で利用できます。なお、本条のほか、デジタル方式による私的録音録画（30 条 2 項）、教科書・デジタル教科書・営利目的の拡大教科書への掲載（33 条、33 条の 2、33 条の 3）、営利目的の試験への複製・公衆送信（36 条）、視聴覚教育センター等におけるビデオの貸出し（38 条 5 項）等については補償金の支払いが必要です。

3　学校での利用方法のポイント

学校等で、**「教育を担任する者及び授業を受ける者」**が、**「その授業の過程」**で使用する場合に、**「著作権者の利益を不当に害する」**ことがない場合、他者の著作物を複製等することができます。

1 教育を担任する者及び授業を受ける者

- 実際に授業を行う方と授業を受ける方です。
- 授業を行う方がご自分の授業で使用するために複製することが認められています。別の方(別の先生や教育委員会など)が他者の著作物を複製して作成したプリント等を共有して使うといったケースは、これに該当しません。

2 その授業の過程

- 「授業」には、教科・科目の授業だけでなく、学校行事やクラブ活動などの特別活動も含まれます。学校の教育計画に基づかない自主的な活動は含まれません。

3 必要と認められる限度

- 授業の内容や進め方等との関係においてその著作物を複製することの必要性を客観的に説明できる必要があります。
- 「必要と認められる限度」は授業の内容や進め方等の実態によって異なるため、外形だけで判断するのではなく、個々の授業の実態に応じて許諾が必要か不要かを判断する必要があります。
- 「必要と認められる限度」に含まれるとしても、後述の⑨−1「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」に該当する場合には、権利は制限されず許諾を得ることが必要となります。

参考資料：改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版）　https://forum.sartras.or.jp/info/005/

4　改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版）

2020年12月より

https://forum.sartras.or.jp/info/005/

（この運用指針は、2021年度からの「授業目的公衆送信補償金制度」の本格実施に際して適用されるべきものとして、文化庁の助言を受けながら、教育関係者、有識者、権利者で構成する「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」が作成したものになります。）

1. 用語の定義

①「複製」

手書き、キーボード入力、印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により、既存の著作物の一部又は全部を有形的に再製することをいいます（著作権法第2 条1項15号。著作物だけでなく、実演、レコード、放送・有線放送の利用についても同様です）。

該当する例	• 黒板への文学作品の板書 • ノートへの文学作品の書き込み • 画用紙への絵画の模写 • 紙粘土による彫刻の模造 ・コピー機を用いて紙に印刷された著作物を別の紙へコピー • コピー機を用いて紙に印刷された著作物をスキャンして変換したPDFファイルの記録メディアへの保存 • キーボード等を用いて著作物を入力したファイルのパソコンやスマホへの保存 • パソコン等に保存された著作物のファイルのUSBメモリへの保存 • 著作物のファイルのサーバへのデータによる蓄積（バックアップも含む） • テレビ番組のハードディスクへの録画 ・プロジェクターでスクリーン等に投影した映像データを、カメラやスマートフォ ンなどで撮影すること

②「公衆送信」

放送、有線放送、インターネット送信（サーバへ保存するなどしてインターネットを通じて送信できる状態にすること（「送信可能化」を含む））その他の方法 により、不特定の者または特定多数の者（公衆※）に送信することをいいます（著作権法第2条1項7号の2、2条5項。著作隣接権の側面では、実演を放送・有線放送、送信可能化すること、レコードを送信可能化すること、放送・有線放送を再放送・再有線放送・有線放送・放送、送信可能化することがこれに相当します）。

ただし、校内放送のように学校の同一の敷地内（同一の構内）に設置されている放送設備やサーバ（構外からアクセスできるものを除きます）を用いて行われる校内での送信行為は公衆送信には該当しません。

該当する例	• 学外に設置されているサーバに保存された著作物の、履修者等からの求めに応じた送信 • 多数の履修者等（公衆）への著作物のメール送信 • 学校のホームページへの著作物の掲載 • テレビ放送 • ラジオ放送

※一般的に、授業における教員等と履修者等間の送信は、公衆送信に該当すると考えられます。

③「学校その他の教育機関」

組織的、継続的に教育活動を営む非営利の教育機関。学校教育法その他根拠法令（地方自治体が定める条例・規則を含む）に基づいて設置された機関と、これらに準ずるところをいいます。

該当する例（カッコ内は根拠法令）	• 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校、各種学校、専修学校、大学等（学校教育法） • 防衛大学校、税務大学校、自治体の農業大学校等の大学に類する教育機関（各省の設置法や組織令など関係法令等） • 職業訓練等に関する教育機関（職業能力開発促進法等） • 保育所、認定こども園、学童保育（児童福祉法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律） • 公民館、博物館、美術館、図書館、青少年センター、生涯学習センター、その他これに類する社会教育施設（社会教育法、博物館法、図書館法等） • 教育センター、教職員研修センター（地方教育行政の組織及び運営に関する法律等） • 学校設置会社経営の学校（構造改革特別区域法。営利目的の会社により設置される教育機関だが、特例で教育機関に該当）
該当<u>しない</u>例	• 営利目的の会社や個人経営の教育施設 • 専修学校または各種学校の認可を受けていない予備校・塾 • カルチャーセンター • 企業や団体等の研修施設

④「授業」

学校その他の教育機関の責任において、その管理下で教育を担任する者が学習者に対して実施する教育活動を指します。

該当する例	• 講義、実習、演習、ゼミ等（名称は問わない） • 初等中等教育の特別活動（学級活動・ホームルーム活動、クラブ活動、児童・ 生徒会活動、学校行事、その他）や部活動、課外補習授業等 • 教育センター、教職員研修センターが行う教員に対する教育活動 • 教員の免許状更新講習 ・通信教育での面接授業[1]、通信授業[2]、メディア授業[3]等 • 学校その他の教育機関が主催する公開講座（自らの事業として行うもの。収支予算の状況などに照らし、事業の規模等が相当程度になるものについては別途検討する） • 履修証明プログラム[4] • 社会教育施設が主催する講座、講演会等（自らの事業として行うもの）
該当**しない**例	• 入学志願者に対する学校説明会、オープンキャンパスでの模擬授業等 • 教職員会議 • 大学でのFD[5]、SD[6]として実施される、教職員を対象としたセミナーや情報提供 • 高等教育での課外活動（サークル活動等） • 自主的なボランティア活動（単位認定がされないもの） • 保護者会 • 学校その他の教育機関の施設で行われる自治会主催の講演会、PTA主催の親子向け講座等

※履修者等による予習、復習は「授業の過程」とする。
※次の①～③は、授業の過程での行為とする。
①送信された著作物の履修者等による複製
②授業用資料作成のための準備段階や授業後の事後検討における教員等による複製
③自らの記録として保存しておくための教員等または履修者等による複製
※高等専門学校は高等教育機関だが、中等教育と同様の教育課程等について本運用指針での対応する部分が当てはまる。

[1] 通学制の大学と同様の授業
[2] 教科書等（インターネット配信を含む）で学んで添削指導や試験を受ける授業
[3] インターネットを通して教員と学生が双方向でやりとりして学ぶ授業。リアルタイムに行う「同時双方向型」と、サーバにコンテンツを置く「非同時双方向型」がある。
[4] 社会人等の学生以外の者を対象とした教育プログラム。修了者には学校教育法に基づく履修証明書が交付される。
[5] Faculty Development。教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み
[6] Staff Development。職員を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組み

⑤「教育を担任する者」

授業を実際に行う人（以下、「教員等」）という）を指します。

該当する例	• 教諭、教授、講師等（名称、教員免許状の有無、常勤・非常勤などの雇用形態は問わない）

※教員等の指示を受けて、事務職員等の教育支援者及び補助者らが、学校内の設備を用いるなど学校の管理が及ぶ形で複製や公衆送信を行う場合は、教員等の行為とする。

⑥「授業を受ける者」

教員等の学習支援を受けている人、または指導下にある人（以下、「履修者等」という）を指します。

該当する例	• 名称や年齢を問わず、実際に学習する者（児童、生徒、学生、科目等履修生、受講者等）

※履修者等の求めに応じて、事務職員等の教育支援者及び補助者らが、学校内の設備を用いるなど学校の管理が及ぶ形で複製や公衆送信を行う場合は、履修者等の行為とする。

⑦「必要と認められる限度」

「授業のために必要かどうか」は第一義的には授業担当者が判断するものであり、万一、紛争が生じた場合には授業担当者がその説明責任を負うことになります（児童生徒、学生等による複製等についても、授業内で利用される限り授業の管理者が責任を負うと考えるべきです。）。その際、授業担当者の主観だけでその必要性を判断するのではなく、授業の内容や進め方等との関係においてその著作物を複製することの必要性を客観的に説明できる必要があります。例えば、授業では使用しないものの読んでおくと参考になる文献を紹介するのであれば、題号、著作者名、出版社等を示せば足るにもかかわらず、全文を複製・公衆送信するようなことについて、必要性があると説明することは困難です。また、大学の場合、教員が学生に対して、受講に当たり教科書や参考図書として学生各自が学修用に用意しておくよう指示した書籍に掲載された著作物の複製・公衆送信も、一般的には「必要と認められる限度」には含まれないと考えられます。

「必要と認められる限度」は授業の内容や進め方等の実態によって異なるため、ある授業科目で当該授業の担当教員がある著作物を複製・公衆送信等を行っており、別の授業科目で他の教員が同様の種類の著作物を同様の分量・方法で複製等をしたとしても、実際の授業の展開によっては、一方は「必要と認められる限度」 に含まれ、他方がそれに含まれないということも理論的にはあり得ます。したが って、外形だけで判断するのではなく、個々の授業の実態に応じて許諾が必要か不要かを判断する必要があります。

また、「必要と認められる限度」に含まれるとしても、後述の⑨「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」に該当する場合には、権利は制限されず許諾を得ることが必要となります。

⑧「公に伝達」

公表された著作物であって、公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することをいいます。

該当する例	• 授業内容に関係するネット上の動画を授業中に受信し、教室に設置された ディスプレイ等で履修者等に視聴させる。

⑨「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」

改正著作権法第 35 条では、著作権者等の許諾を得ることなく著作物等が利用できる要件を定めていますが、その場合であっても著作権者等の利益を不当に害することとなるときには、補償金を支払ったとしても無許諾では複製や公衆送信はできません。これは、学校等の教育機関で複製や公衆送信が行われることによって、現実に市販物の売れ行きが低下したり、将来における著作物等の潜在的販路を阻害したりすることのないよう、十分留意する必要があるからです。つまり、「教育機関において行われる複製や公衆送信」、「教員又は授業を受ける者による複製や公衆送信」、「それが授業の過程で利用されるもの」、「授業のために必要と認められる限度の複製や公衆送信」という要件のすべてを満たしていても、著作権者等の利益を不当に害することとなる場合にはこの規定は適用されず、著作権者等の許諾を得ることが必要になります。

以下では、著作権者等の利益を不当に害することとなるかどうかのキーワード（著作物の種類、著作物の用途、複製の部数、複製・公衆送信・伝達の態様）ごとに基本的な考え方と不当に害すると考えられる例を、初等中等教育と高等教育に分けて説明します。

説明の中で、「不当に害する可能性が高い（低い）」という書き方をしているのは、この運用指針で示す事例が確実に著作権侵害になる又はならないということを保証するものではないからです。関係者の見解の相違があった場合には、個々のケースごとに、利用者がその行為について授業の目的に照らして必要と認められる限度であることを客観的に説明し得るか、又は権利者がその利益を不当に害されたことを客観的に説明し得るかによって判断せざるを得ません。また、示した例は典型的なものであり、これらに限られるものではありませんので、ここにあげられていないケースについては「基本的な考え方」や典型例を基にして個別に判断する必要があります。どのような場合に不当に害することになるかについての「基本的な考え方」は、教育関係者がこれに委縮して利用を躊躇してしまうことは改正法の意図するところではありませんが、逆に学習者にとって良かれと思ってというような安易な発想に立つのも禁物です。⑦で述べたように、当該教育機関の目標やねらいに照らして必要と認められる限度で著作権者等の権利が制限されますが、その範囲の利用であっても、その行為が社会における著作物等の流通にどのような影響を及ぼすかについて留意する必要があります。本項は、それを考えるために「基本的な考え方」を整理したものです。このような構造と考え方を理解していただけると、ICT活用教育に伴う著作物利用について、相当 円滑に進むものと考えられます。

なお、ここに示したのは、第 35 条の規定に関する考え方であり、教育活動の中では、引用など他の規定の適用を受けて著作権者等の許諾を得ることなく著作物等を利用できる場合があります。

⑨－Ⅰ 初等中等教育

基本的な考え方

■著作物の種類■

○ 著作物の種類によって、そもそもこの規定を適用することが適切ではないものがあります。例えば「プログラムの著作物（アプリケーションソフトウェア）」です。学習用の市販のアプリケーションソフトウェアを一つだけ購入し、もしくは、Ⅰライセンスのみ購入し、それを学校の複数のPCにコピーして使用したり、児童・生徒に公衆送信して提供したりすることは、プログラムの著作物という種類に照らして著作権者等の利益を不当に害する可能性が高いと考えられます。

○ この規定により著作権者の許諾を得ずに著作物を複製又は公衆送信する場合、複製又は公衆送信できる分量について「授業において必要と認められる限度において」と定められているところ、この要件を充足した場合であっても、市場での流通を阻害するような利用が著作権者等の利益を不当に害することとなりかねないことを考えると、著作物の種類によっては著作物の全体が利用できるのか、部分の利用に限られるのかが異なることもあります。このことについてどの著作物の種類が全部の利用ができるか、あるいはそうでないかを網羅的・限定的に示すことは困難ですが、例を挙げながらその考え方を示します。
短文の言語の著作物、絵画及び写真の著作物などの場合は、全部の利用が不可欠であるとともに、部分的に複製又は公衆送信することによって同一性保持権の侵害になる可能性があります。そのような種類の著作物であれば、一つの著作物の全部を複製又は公衆送信をしても著作権者等の利益を不当に害するとは言えない可能性があります。なお、この項でいう「複製又は公衆送信」は、授業に供する著作物を単体で利用する場合について述べたものであり、授業風景や解説の中継映像などの動画の中で影像の一部として、又は背景的にこれらの著作物が利用されている場合（専ら著作物等自体を提供するような行為でない場合）は、著作物の種類に関わらず、著作物の全部が複製又は公衆送信されていても著作権者等の利益を不当に害する可能性は低いと考えられます。

○ 厳密には「著作物の種類」という観点での区別ではありませんが、著作物の種類とも関連して著作物が提供されている状況や著作物を入手する環境によって、授業の目的で著作物の全部を複製することが、著作権者等の利益を不当に害することに該当する場合もあれば、そうでない場合もあります。以下はそのような観点から考え方を説明します。

- 一つのコンテンツの中に複数の著作物が含まれている場合、コンテンツと他の著作物の相互関係によって著作権者等の利益を不当に害するかどうかの分量が異なることもあり得ます。例えば、放送から録画した映画や番組であれば、通常、全部を複製することは著作権者等の利益を不当に害する可能性が高いので、そのうちの必要な一部分にとどめて複製することが考えられます。その一部分に音楽や言語の著作物等が素材として含まれていた場合、その一部分の利用が授業のために必要な範囲であれば、その素材としての著作物等については全部の複製をしていても著作権者等の利益を不当に害することとなる可能性は低いと考えられます。
- 著作権者等の利益を不当に害するかしないかを判断する重要な観点は、複製や公衆送信によって現実に市販物の売れ行きが低下したり、将来における著作物の潜在的販路を阻害したりすることがあるか否かですので、利用者がその著作物を個別に入手（購入）できるかどうか、あるいはその利用許諾申請を著作権者等に、個別に又は包括的に行うことができるかどうかが一つのカギになります。相当程度に入手困難かつ、合理的な手段で利用許諾を得ることができない著作物であれば、この規定の適用を受けて複製できる著作物の分量については全部も可能となるものがあると考えられますので、個別に判断することが必要と考えられます。

＜全部を複製又は公衆送信しても著作権者等の利益を不当に害することとはならない可能性が高い例（授業に必要と認められる限度内であることを充足することが前提）＞

●採択された教科書中の著作物の利用
※「個々の作品（文章作品や写真・イラスト等）の他に、発行した出版社等による著作物も含まれる。
※採択された教科書の代替として使用される学習者用デジタル教科書の契約内の利用についても同様。
●俳句、短歌、詩等の短文の言語の著作物
●新聞に掲載された記事等の言語の著作物
●写真、絵画（イラスト、版画等を含む。）、彫刻その他の美術の著作物、及び地図

■著作物の用途■

○ その著作物がどのような目的で作成され、市場でどのように供給されているかによって、著作権者等の利益を不当に害することもあります。例えば、児童・生徒が全員購入し、利用する目的で販売されている問題集やドリルを、児童・生徒の購入の有無にかかわらず、教師が、授業の過程で児童・生徒に解かせるために複製又は公衆送信するようなことは、当該著作物の本来の流通を阻害することになります。
ただし、例えば、児童生徒がドリルを忘れてしまった際に、ドリルの一部をコピーして渡すというような行為は、許容されるでしょう。
また、採択していない教科書（採択外教科書）の中の著作物については、採択した教科書（採択教科書）と異なり、原則として、授業に必要な限度の範囲内で、通常の出版物の中の著作物と同様の複製・公衆送信が可能と考えられます。例えば、1 冊の採択外教科書の中の多くの著作物を複製・公衆送信する場合は、著作権者の許諾が必要です。

■複製の部数・公衆送信の受信者の数■

○ 複製部数や公衆送信の受信者の数が、授業を担当する教員等及び当該授業の履修者等の数を超えるような場合は、そもそも「授業のために必要と認められる限度」を超えており認められませんし、併せて著作権者等の利益を不当に害する可能性が高いと考えられます。ただし、授業参観や研究授業の参観者に、授業で配布する著作物と同一の著作物を配布することは、「必要と認められる限度」と考えられます（⑦「必要と認められる限度」を参照）。

■複製・公衆送信・伝達の態様■

○ 「複製の態様」に照らして著作権者等の利益を不当に害する場合の例としては、仮に全部の複製が認められるようなケースであっても、市販のような様態で製本し、複製することが考えられます。デジタルであるかアナログであるかは問いませんが、その複製物を単体で（教材の用途を超えて）他の利用に供することができるような場合には、著作権者等の利益を不当に害することとなる可能性が高いと考えられます。

○ 「公衆送信の態様」に照らして著作権者等の利益を不当に害する場合の例としては、学校、教育委員会のホームページや動画共有サービスなど、誰でもアクセスが可能なオープンなネットワーク環境（学校に在籍する教員や児童生 徒以外の不特定者が、誰でも受信できるような態様）で公衆送信することが考えられます（この場合は、同時に「必要と認められる限度」の要件も充足しません）。著作権者等の利益を不当に害することがないように公衆送信を行うには、たとえば、授業支援クラウドなどで、IDとパスワードを児童・生徒全員に設定し、限定された児童・生徒のみに公衆送信したり、コンテンツの非公開URLを履修者である児童・生徒のみに伝えたりするなどの方法があります。いずれにせよ、授業の過程で利用することを実質的にコントロールできているかどうかが重要です。

○ 「伝達の態様」に照らして著作権者等の利益を不当に害する場合の例としては、この規定が授業の過程での利用に係る制限規定であることを考慮すると、授業の履修者以外の者にも見せるような態様で伝達することが考えられます。ただし、オンライン授業で保護者が機器の操作を補助することが必要な場合は、保護者は授業を支援するものと考えられ、著作権者等の利益を不当に害さないと考えられます。（⑥「授業を受ける者」を参照）

＜不当に害する可能性が高いため、補償金の範囲では利用できない例＞

- 同一の教員等が、ある授業の中で、同一の書籍の中から1回目の授業で第1章、2回目で第2章を複製して配布するというように、同じ著作物や出版物の異なる部分を利用することで、結果としてその授業での利用量が当該著作物や出版物の多くの部分を使い、市販物の売れ行きを低下させるようなこと。
- 授業を行う上で、教員等や児童・生徒が通常購入し、提供の契約をし、又は貸与を受けて利用する著作物ついて、購入等の代替となるような態様で、複製や公衆送信すること。

  利用する著作物ついて、購入等の代替となるような態様で、複製や公衆送信すること。
  ・著作物の例
  <教科指導>教師用指導書、参考書、資料集、問題集、ドリル、ワークブック、テスト・ペーパー、授業で教材として使われる楽譜、副読本、教育用映像ソフト
  ただし、履修者全員が購入していることが確認されている場合であって、問題の解説等を行う目的で付加的に複製等を行うことは許容される余地がある。
  <特別活動等>演劇の脚本、読書会用の短編小説、部活動で使われる楽譜
- 美術、写真など、「不当に害しない可能性が高いと思われる例」において全部の利用が認められている著作物を市販の商品の売上に影響を与えるような品質で提供すること
- 市販あるいは長期間保存できるように製本して配布すること
- 組織的に素材としての著作物をサーバへストック（データベース化）すること